

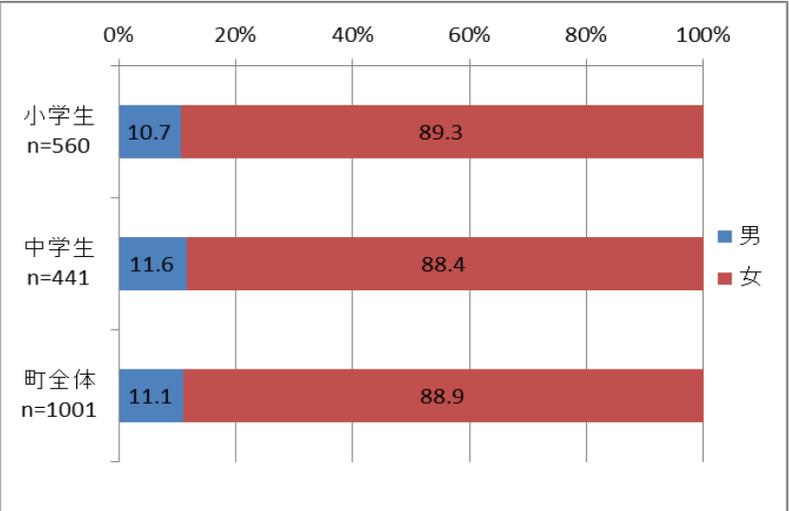
鶴田町学力向上推進実態調査結果 【平成20年度－平成27年度比較】

1 あなたご自身のことについて質問します。

(1) あなたの性別は

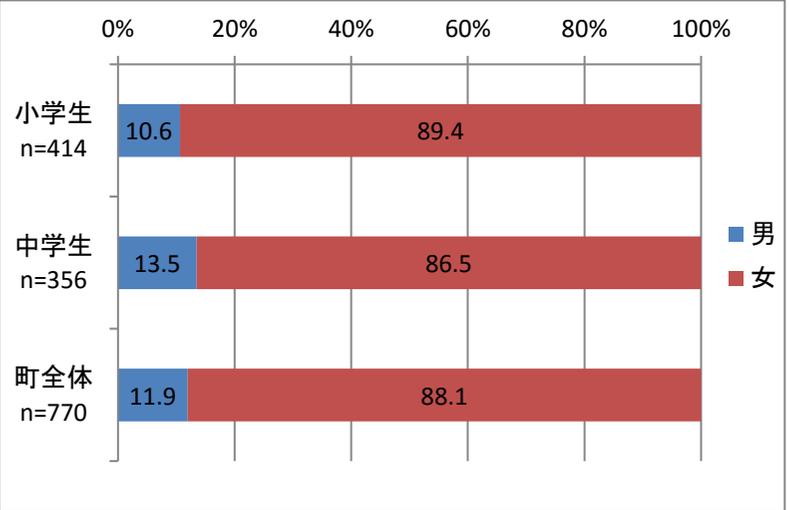
n=有効回答数

■平成20年度



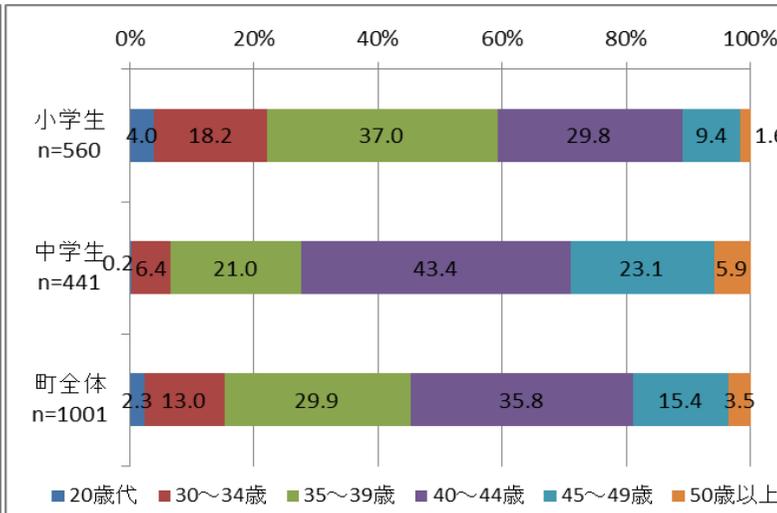
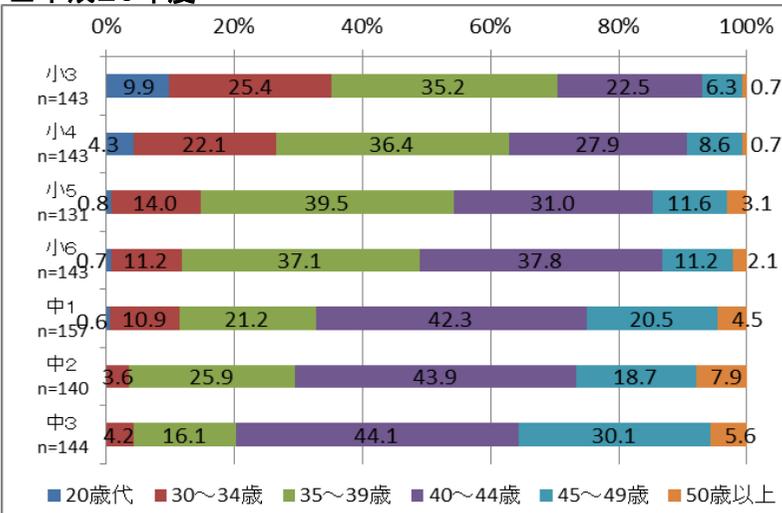
回答保護者性別

■平成27年度

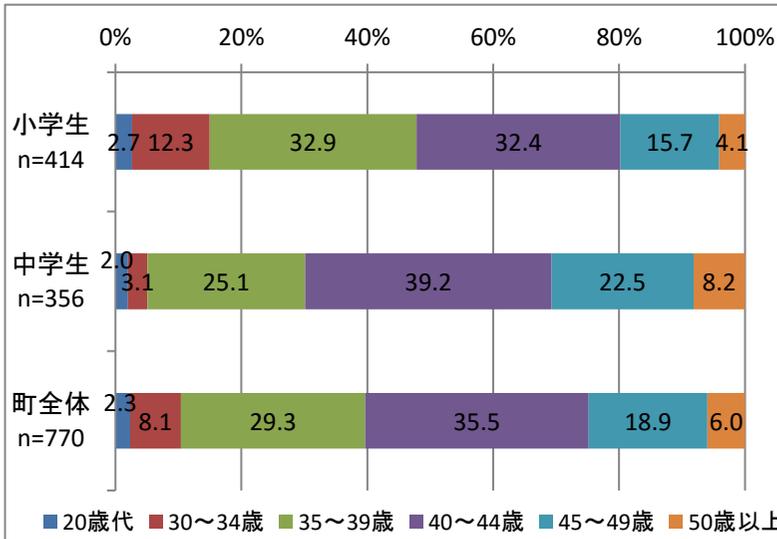
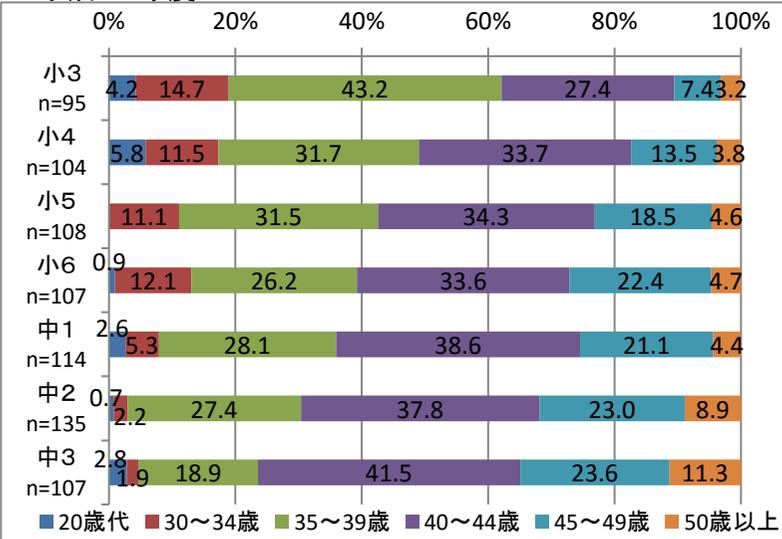


(2) あなたの年齢は

■平成20年度



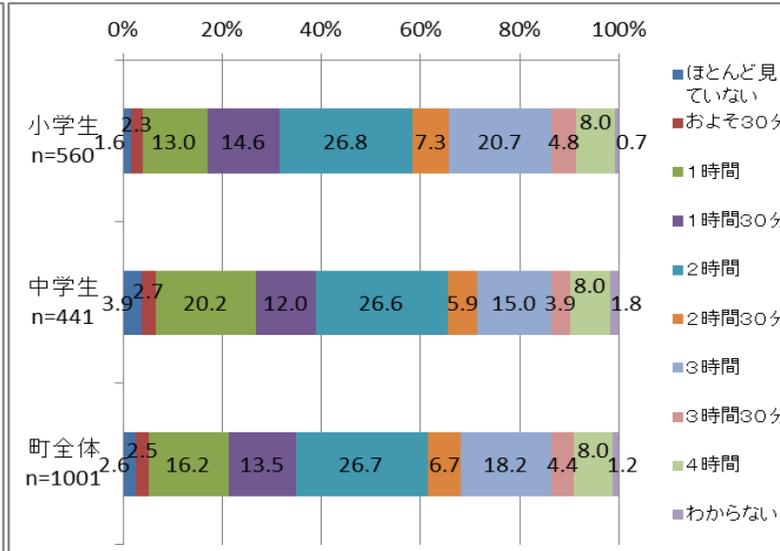
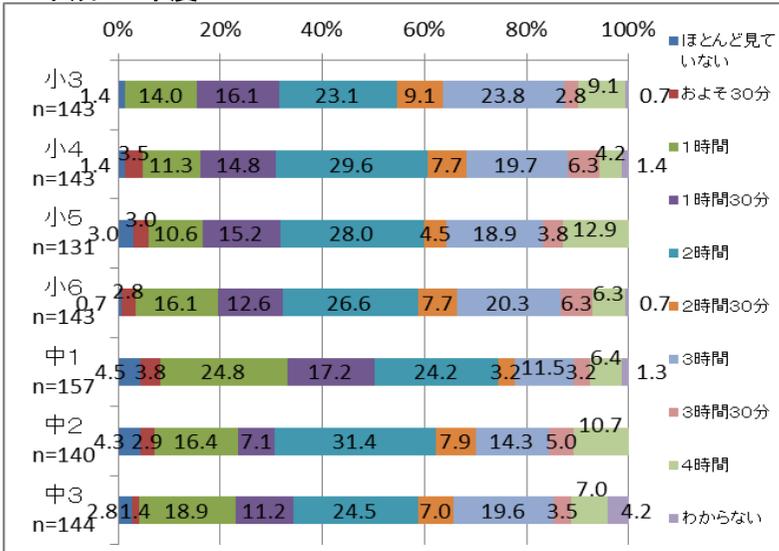
■平成27年度



3 お子さんの家での様子について質問します。(1)～(8)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

(1) お子さんは、学校がある日、1日あたりテレビを何時間くらい見ますか。(ゲーム・スマホ・携帯などを含む)

■平成20年度



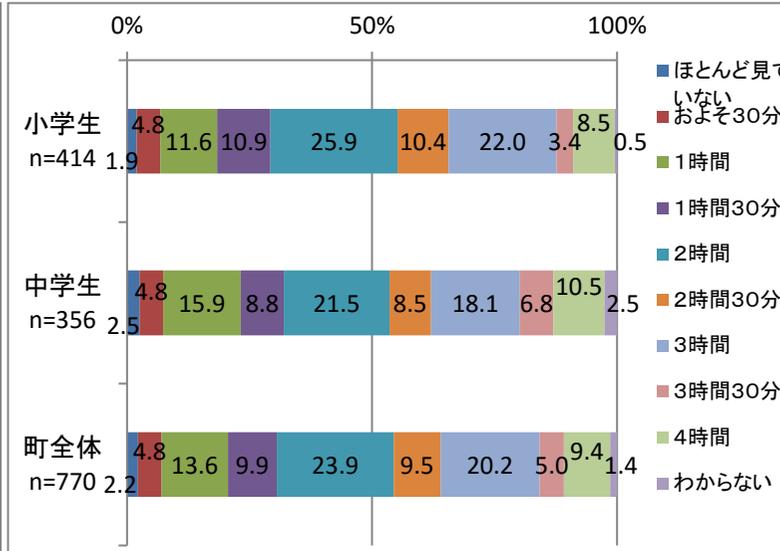
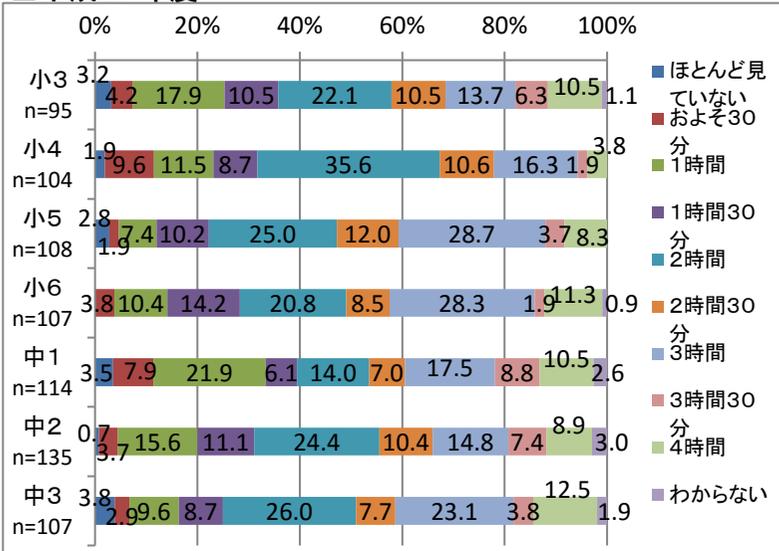
1日のテレビ視聴等の時間に関して、

小学生は1時間以下・3時間以上ともに増加している。

長時間テレビを見る者の増加と、あまり見ない者の増加という、二極化が見られる。

中学生は3時間以上が増加し、1時間以下が減少している。

■平成27年度

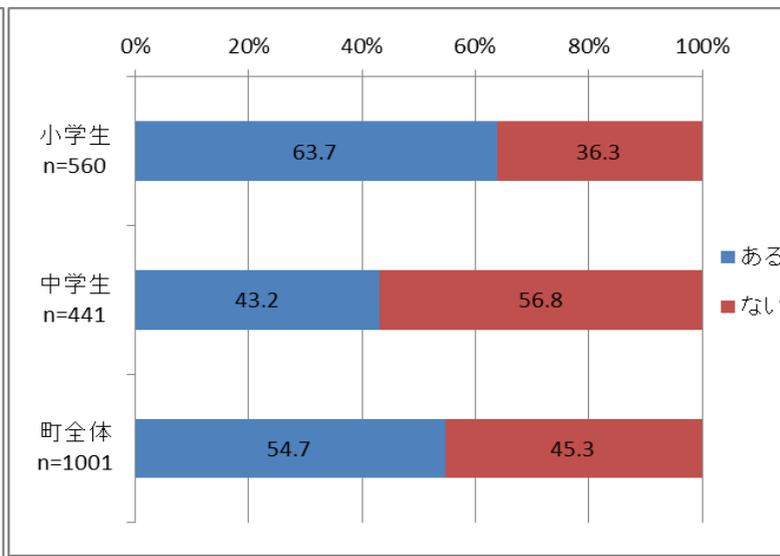
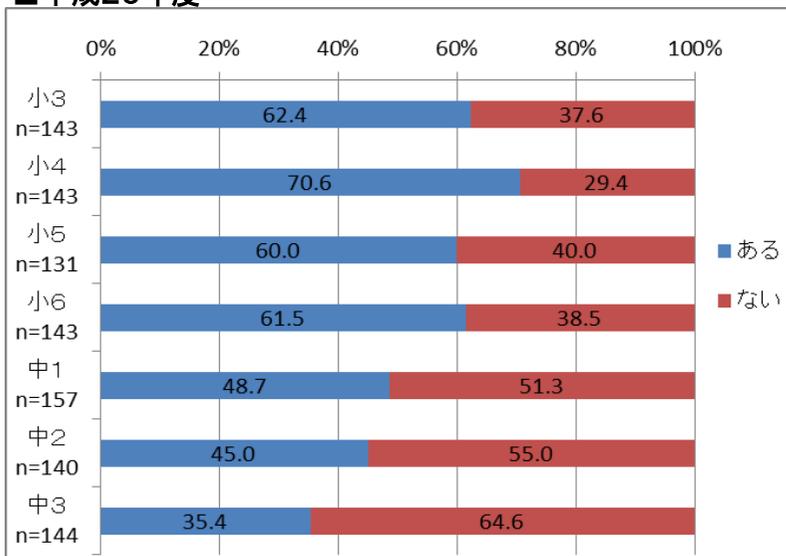


これが全体的な時間の増加の原因となっている。

27年度の調査には、テレビ・ゲームに加えてスマホ・携帯の時間も含まれている。特に中学生のスマホ・携帯への依存への対策に課題があると思われる。

(2) あなたの家では、お子さんとの間で、テレビを見たり、ゲームをしたり、スマホ・携帯を使ったりする時の約束事がありますか。

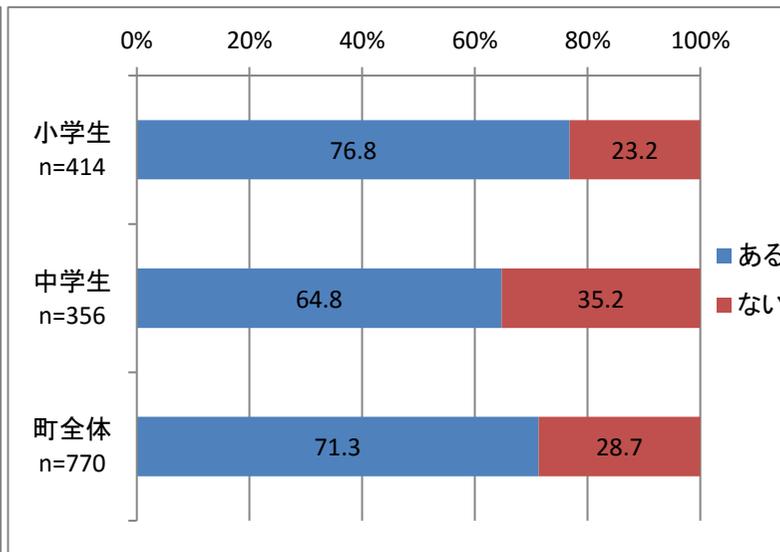
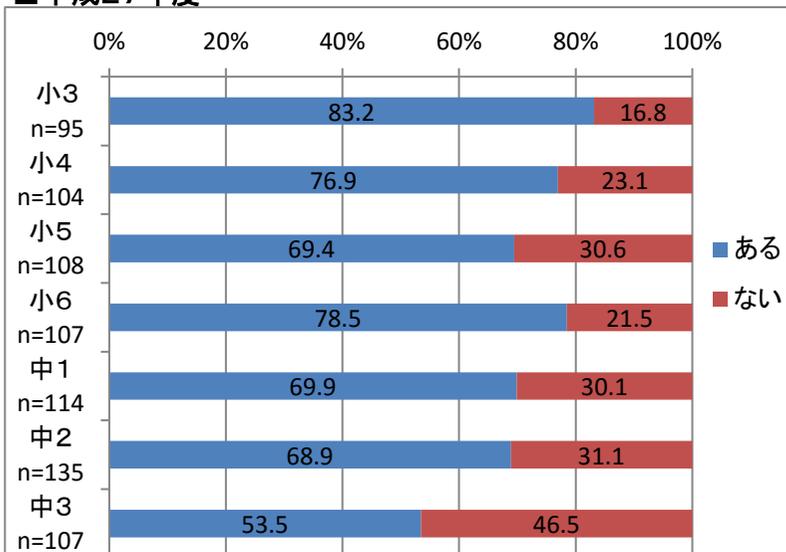
■平成20年度



テレビ視聴等の約束事に関しては、

小学生・中学生ともに、テレビ・ゲーム・スマホ・携帯の使用に関して約束事のある家庭が増加している。

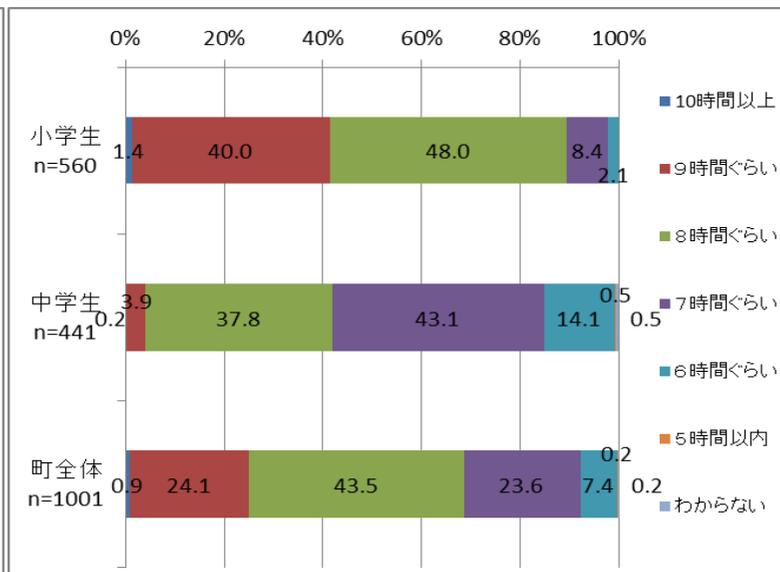
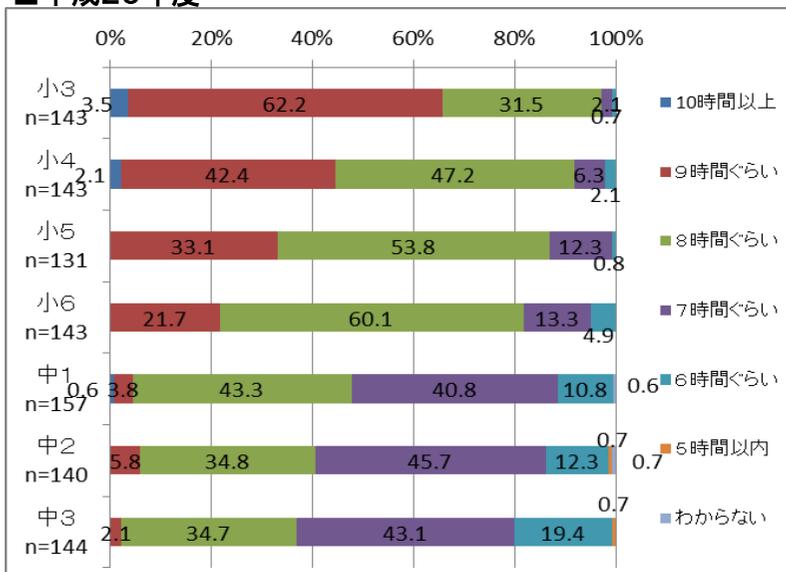
■平成27年度



しかし、約束事のない家庭も少なからずあるため、今後これを改善することが課題である。

(3) お子さんは、学校がある日、1日あたり何時間くらい眠っていますか。

■平成20年度



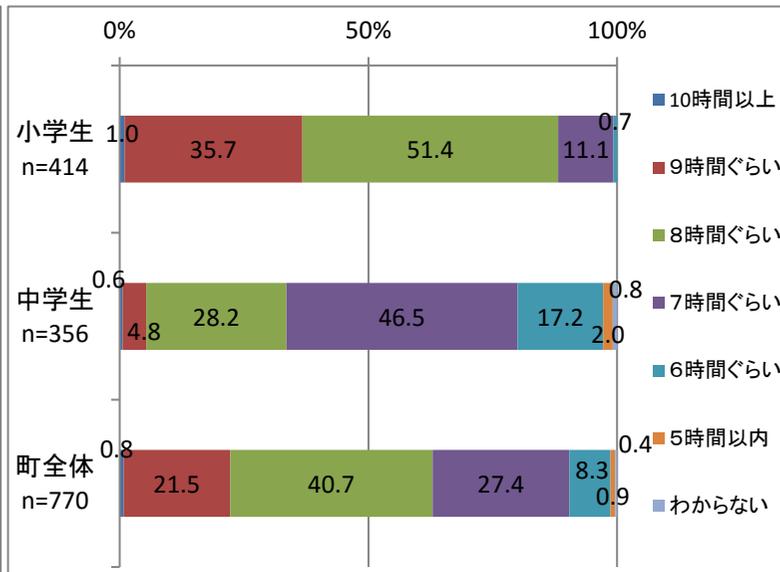
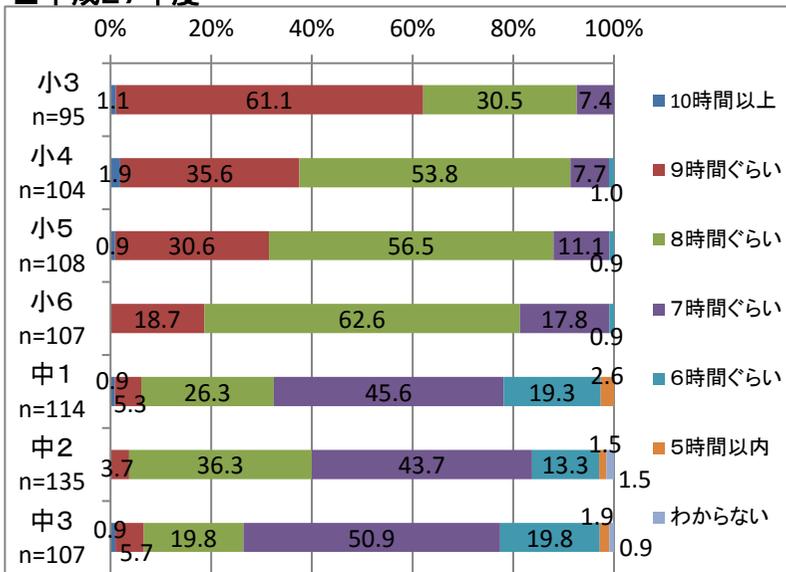
1日の睡眠時間に関しては、

小学生は9時間が減少し、7・8時間が増加している。

中学生は8時間が減少し、6・7時間が増加している。

小・中学生ともに、睡眠時間が減少している。

■平成27年度

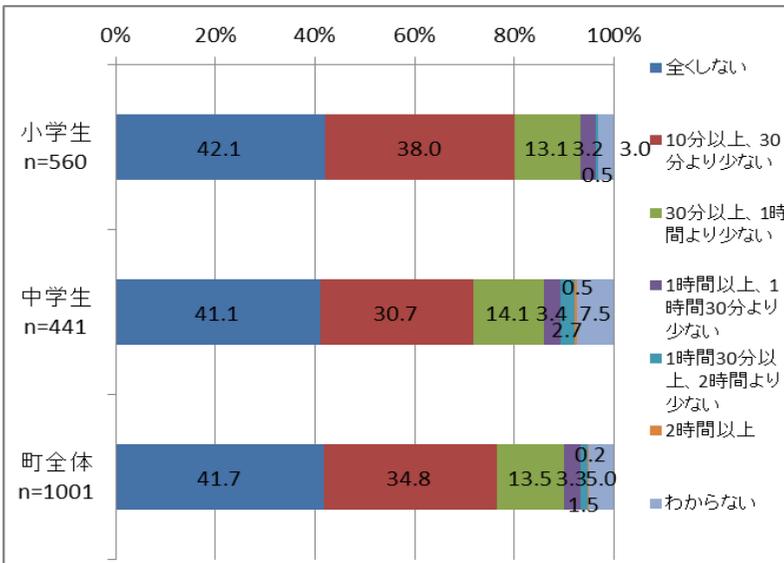
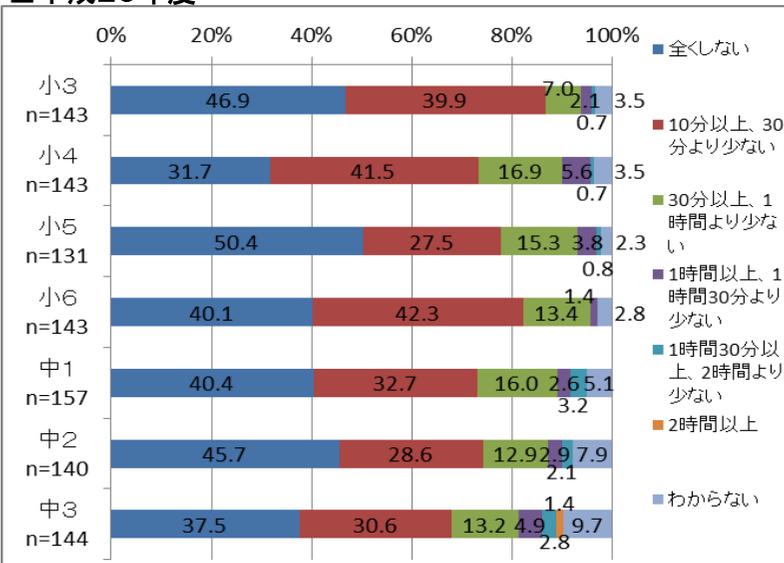


今後は、健康な生活のために睡眠時間を確保していくことが課題である。

そのためには、テレビ・ゲーム・スマホの時間の増加とあわせて、取り組む必要がある。

(4) お子さんは、学校がある日、1日あたり何時間くらい読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)

■平成20年度



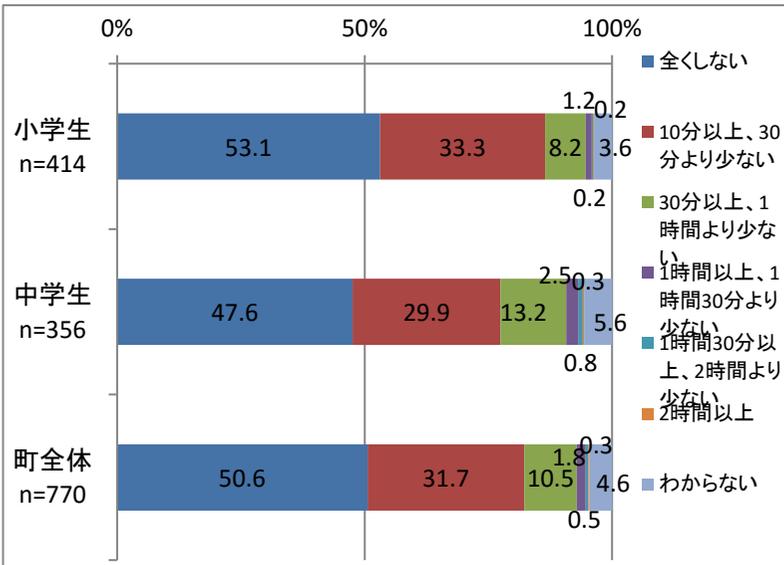
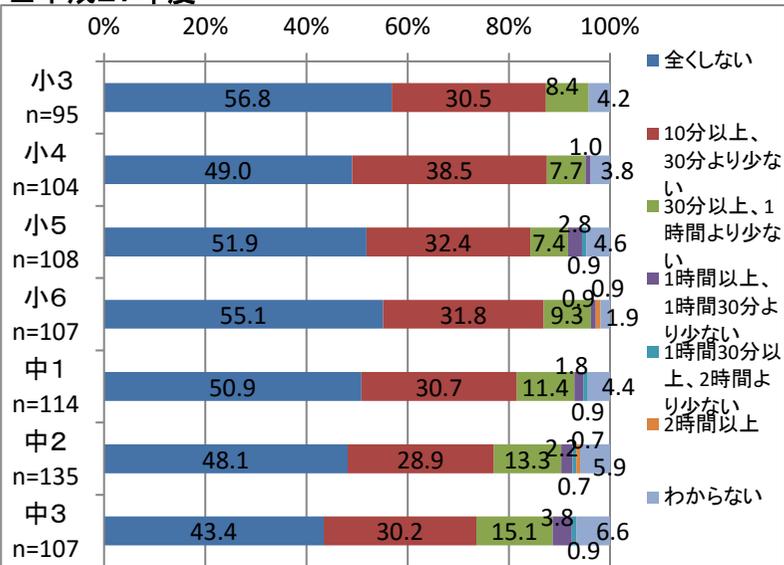
1日の読書時間に関しては、

小学生・中学生ともに、1日の読書時間「0時間」が大きく増加している。

活字離れが進んでいると言われていたが、調査結果から明確になった。

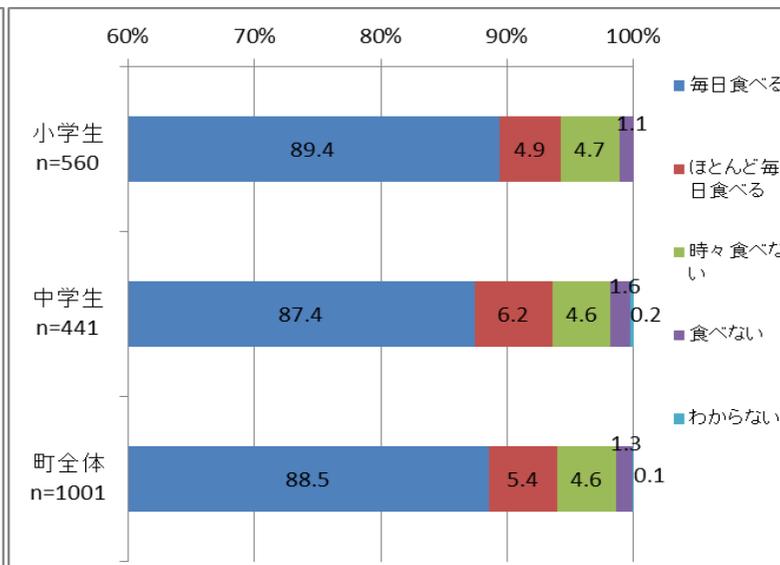
読書に親しむ習慣をつくることが今後の課題である。

■平成27年度



(5) お子さんは、学校がある日、朝ごはんを毎日食べますか。

■平成20年度



朝ごはんに関しては、

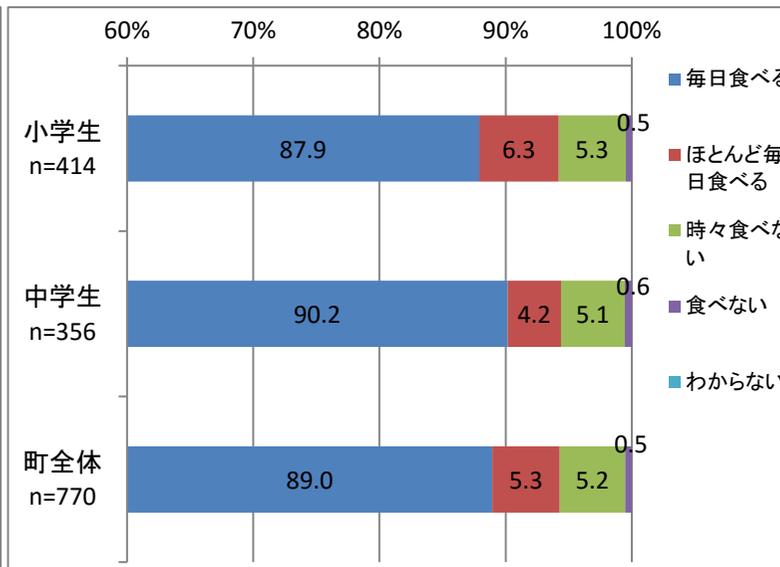
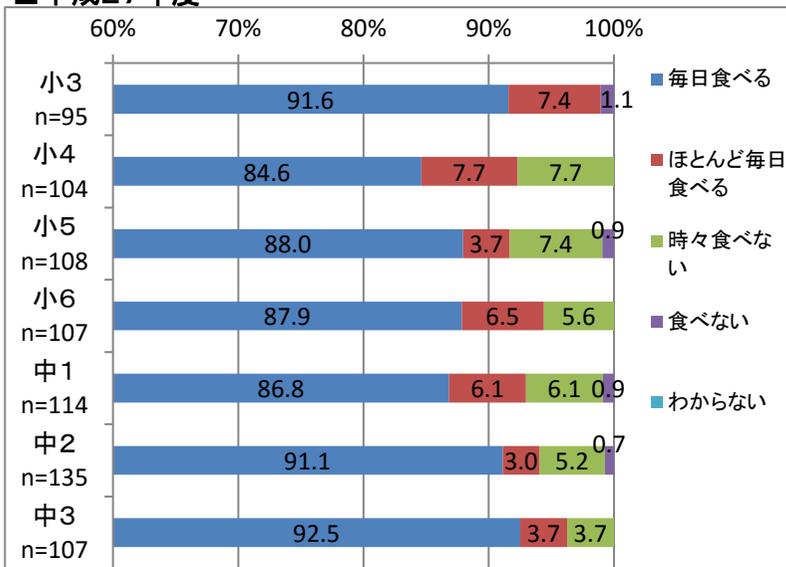
「毎日食べる」と「ほとんど毎日食べる」の割合が、20年度と27年度で小学生・中学生ともほとんど変わらない。

「食べない」や「時々食べない」

の割合が減少していないこと

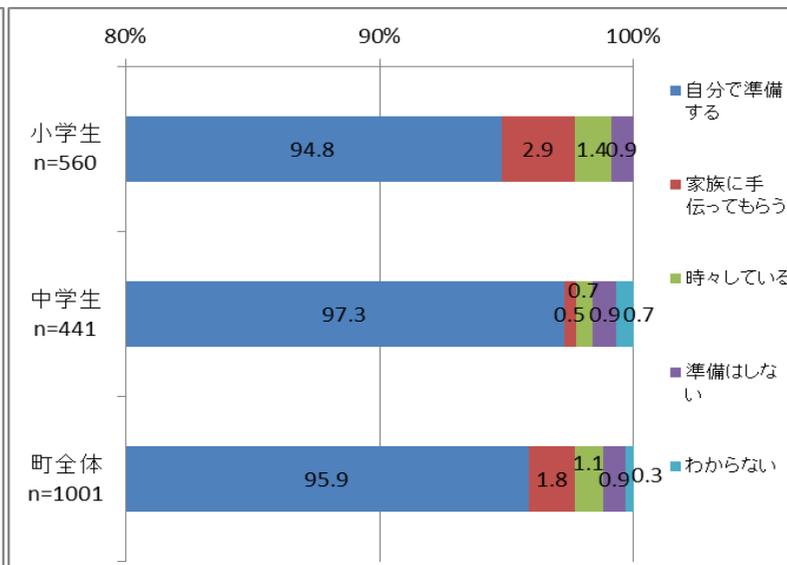
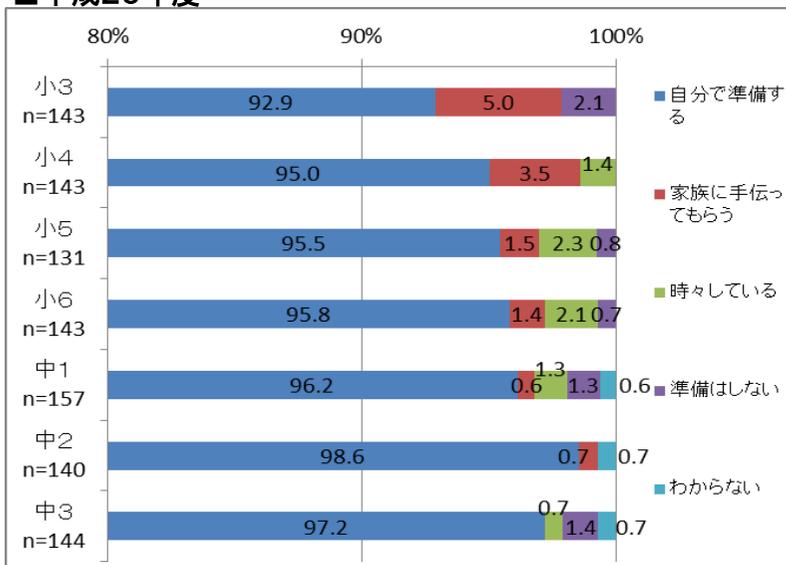
から、これらの家庭への働きかけを工夫することが課題である。

■平成27年度



(6) お子さんは、学校へ行く前までに、教科書や学習用具を準備していますか。

■平成20年度

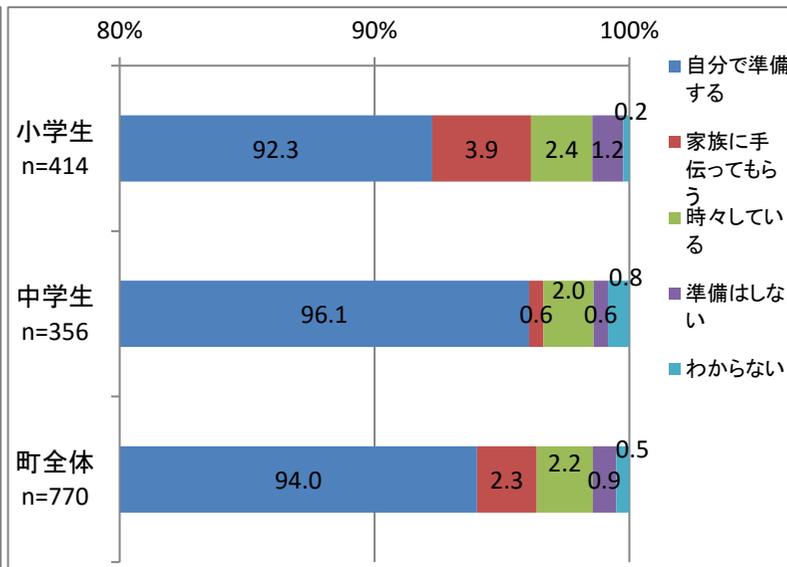
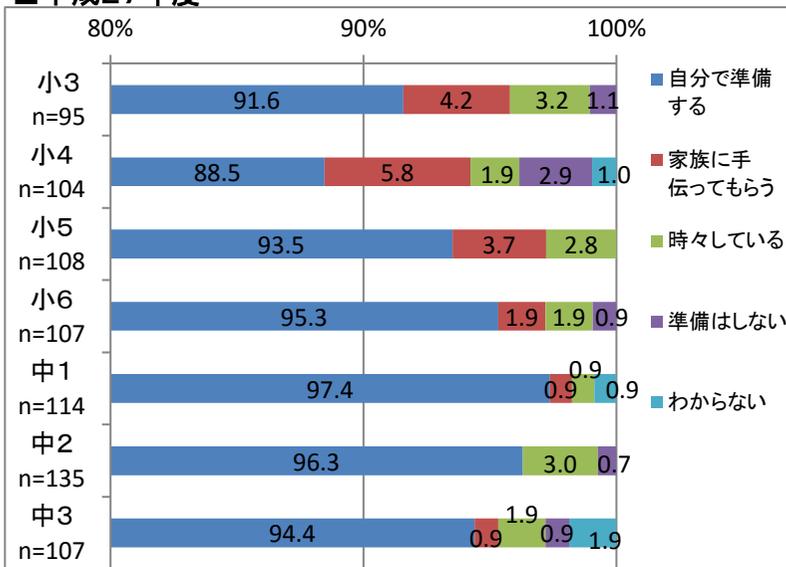


教科書や学習用具の準備に関しては、

小学生・中学生ともに、「自分で準備する」が大部分である。

おおむね好ましい傾向を示しているが、一部に「準備しない」や、「わからない」児童生徒が

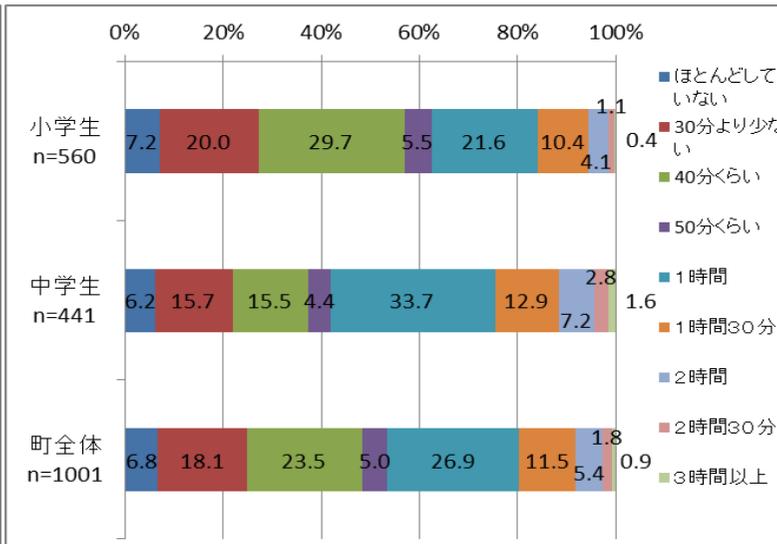
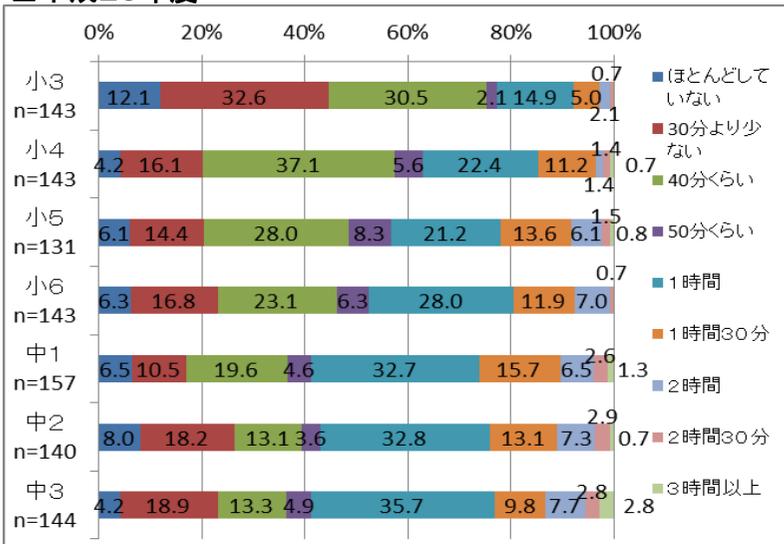
■平成27年度



いることが課題である。

4 お子さんの家庭学習について質問します。(1)～(7)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。
 (1) お子さんは、学校がある日、1日あたり学校の授業のほかに何時間くらい勉強していますか。学習塾や家庭教師について勉強した時間も入れてください。
 (習字やそろばん、水泳などのおけいごとは除く。)

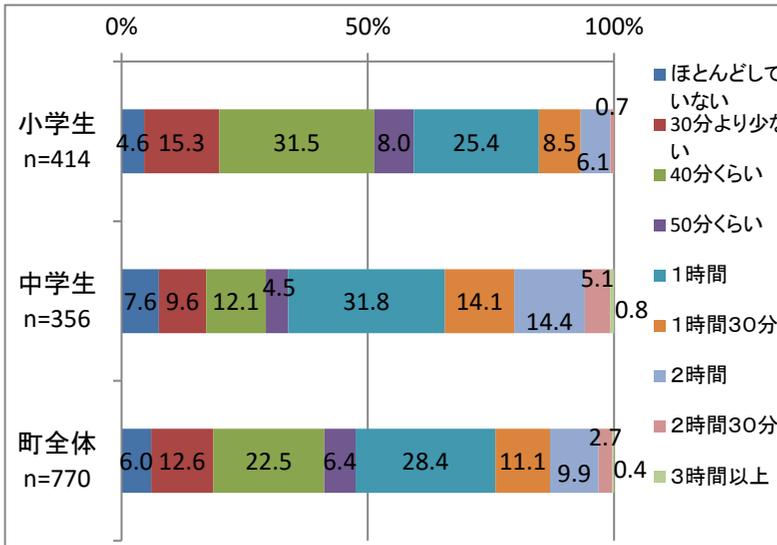
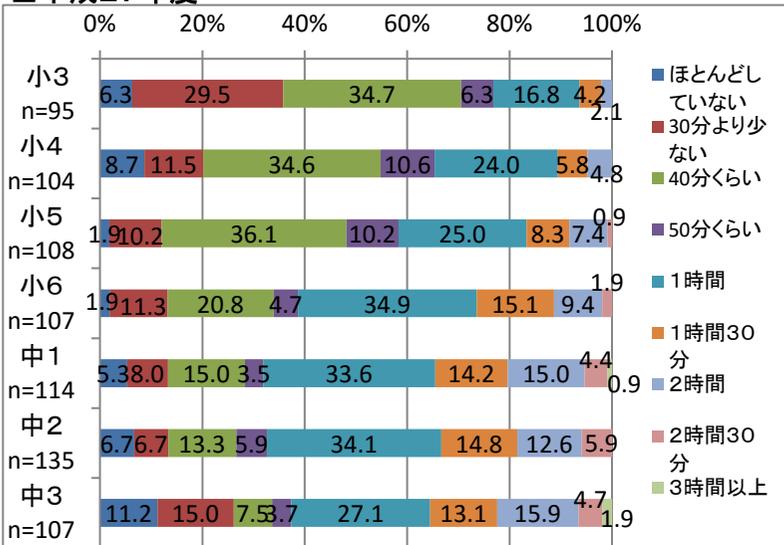
■平成20年度



家庭学習時間に関しては、

小学生は「40分以上家庭で学習をしている」が増加している。
 中学生は「2時間以上家庭学習をしている」が増加している。

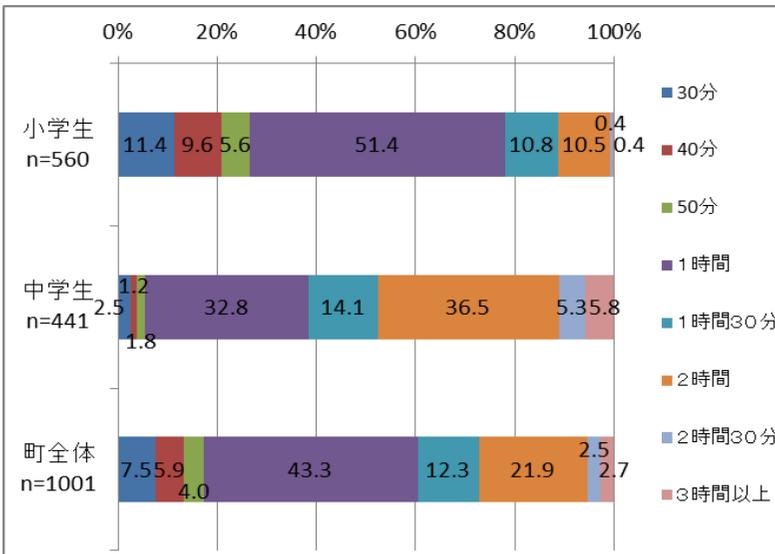
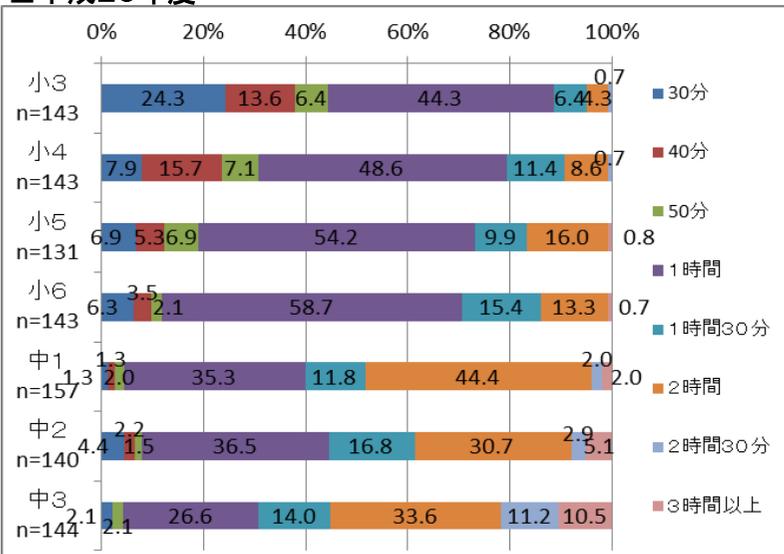
■平成27年度



小学生・中学生ともに、家庭学習の時間は増加していることから、子どもも保護者も家庭学習に対する意識が向上してきていると思われる。

(2) お子さんに、学校がある日、家で学習してほしい時間はどのくらいですか。

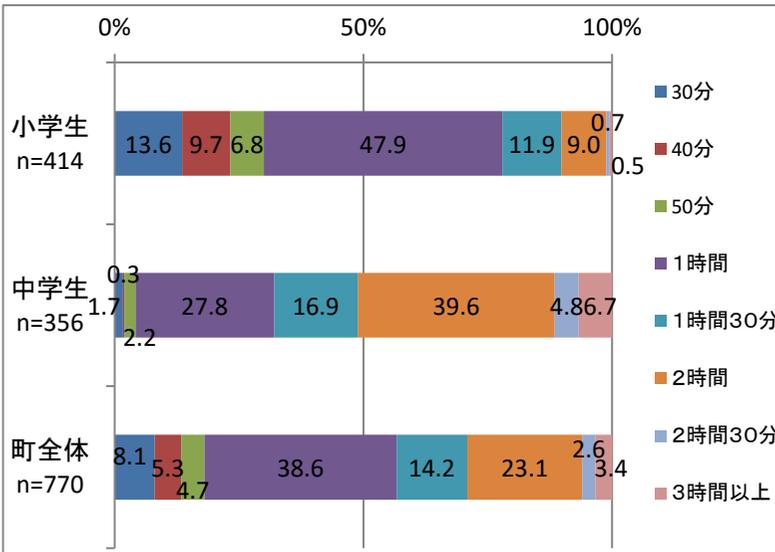
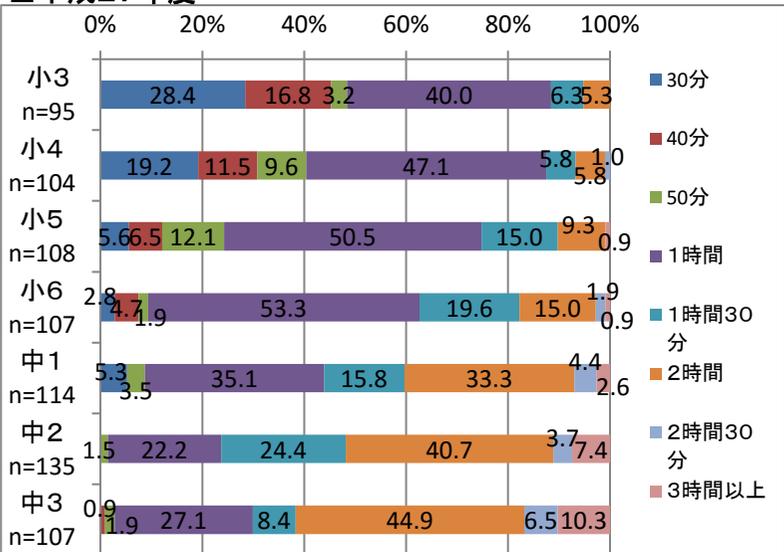
■平成20年度



家庭で学習してほしい時間に関しては、

小学生は、「1時間以上学習してほしい」が減少している。
 中学生は、「2時間以上学習してほしい」が増加している。
 小学生・中学生ともに、「1時間以上は学習してほしい」との回答が半数を示した。

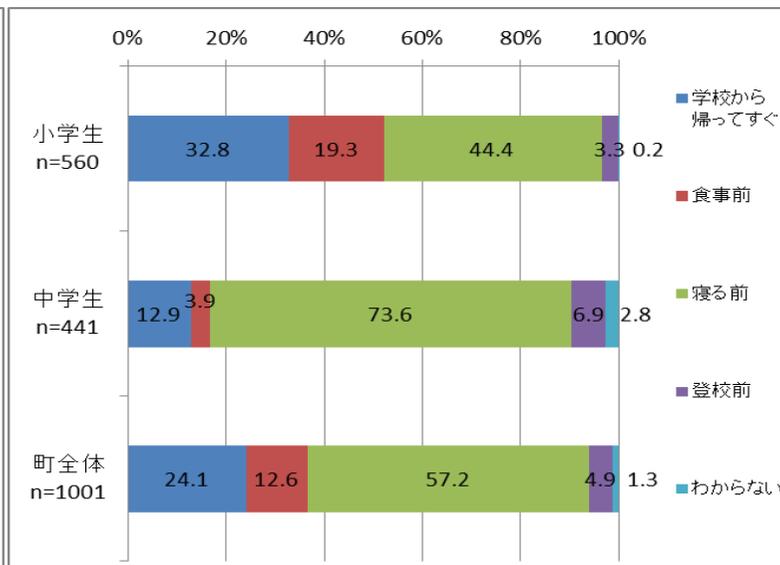
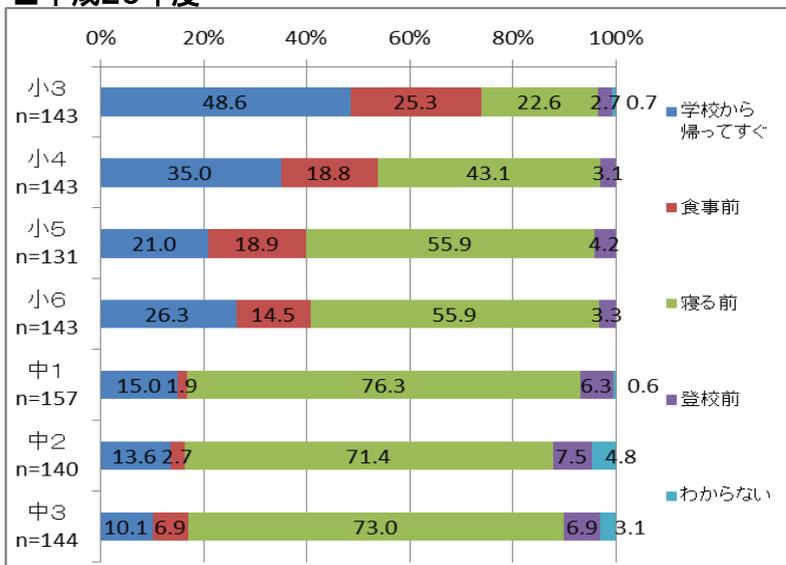
■平成27年度



7年前から大きな変化は見られないものの、小学生の保護者は1時間以下が増加していることから、学習時間の目安(学年×10分)が定着しているのではないかと考えられる。

(3) お子さんは、いつ家庭学習をしていますか。

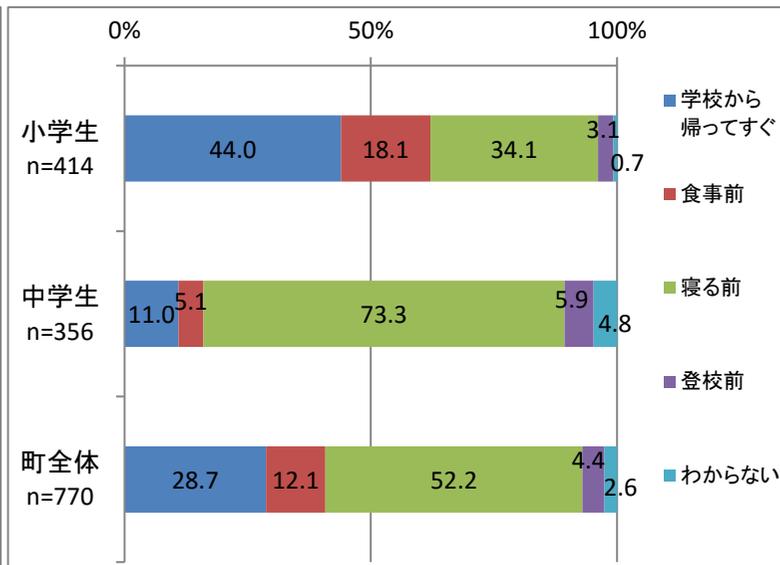
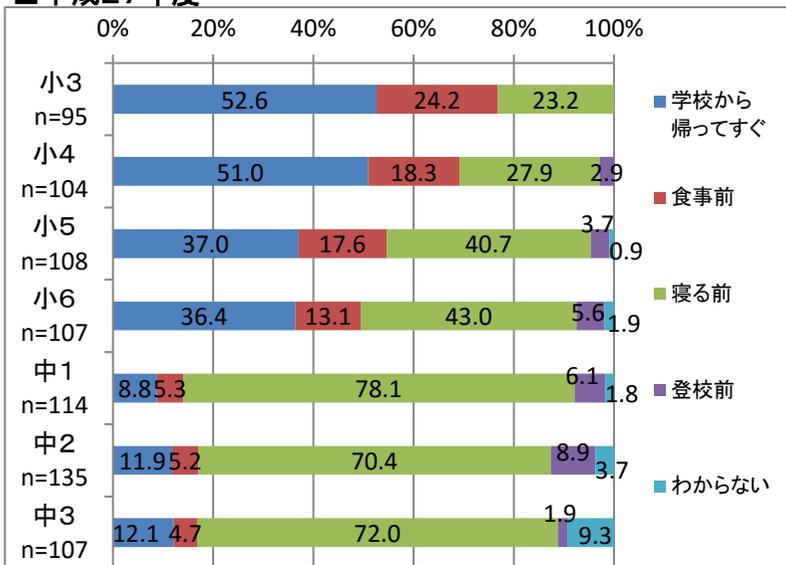
■平成20年度



いつ家庭学習をするかに
関しては、

小学生は、「学校から帰ってか
らすぐに学習」が増加している。
中学生は大きな変化はなく、
「寝る前に学習」が大半を占め
ている。

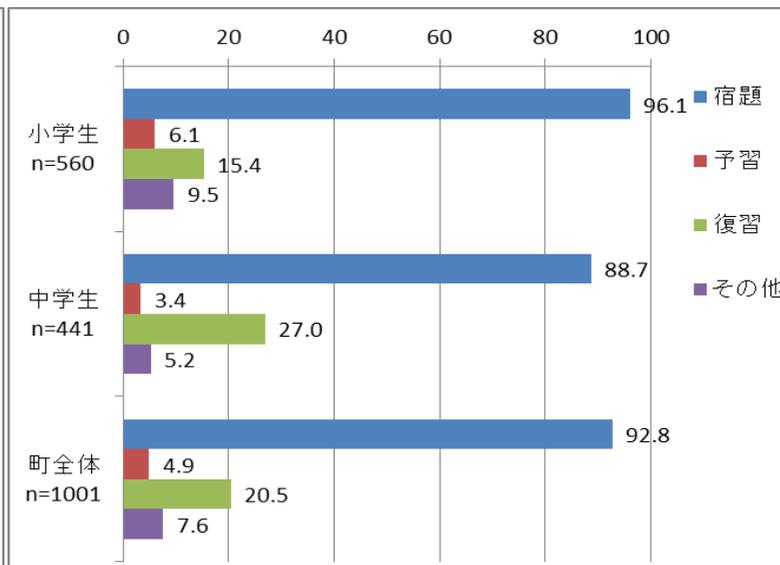
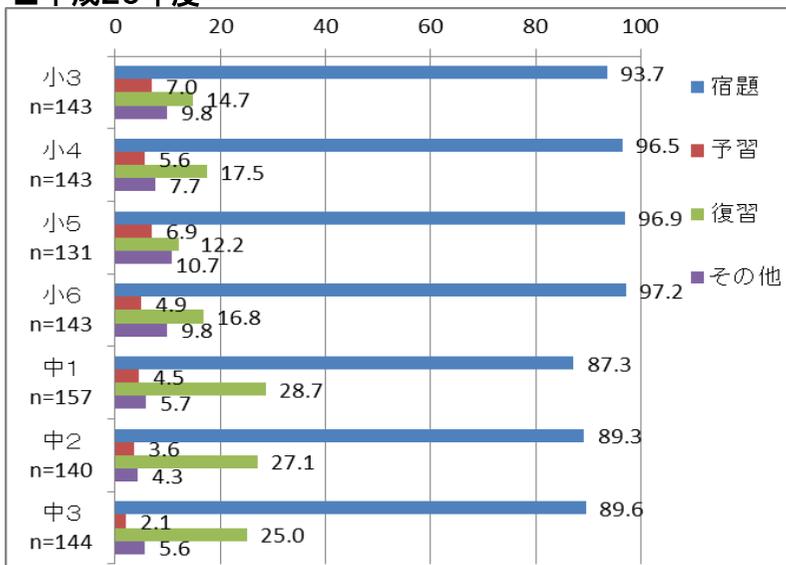
■平成27年度



小学生の場合は、帰ってから
すぐ学習をするという、学校の
指導が徹底されてきているの
ではないかと思われる。
中学生は、部活動などにより
帰宅後の時間が限られている
ことが、学習時間帯に影響し
ていると思われる。

(4) お子さんは、おもにどんな内容を家庭で学習していますか。(複数回答)

■平成20年度

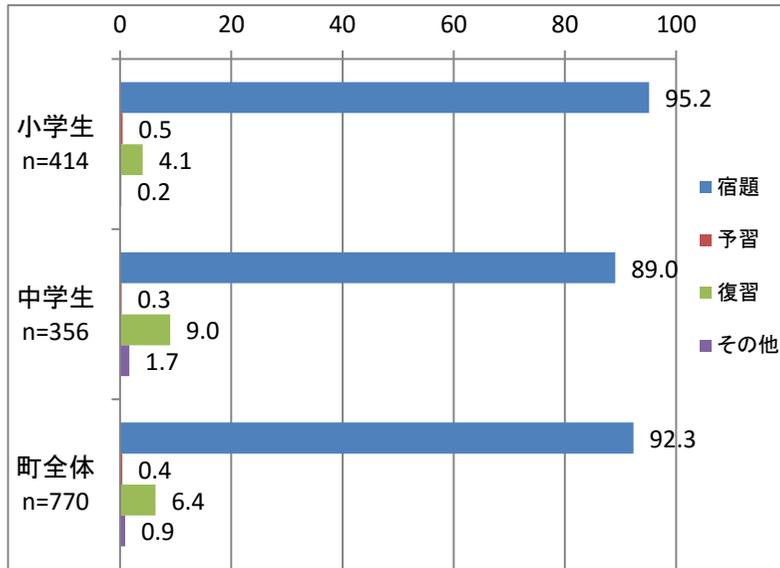
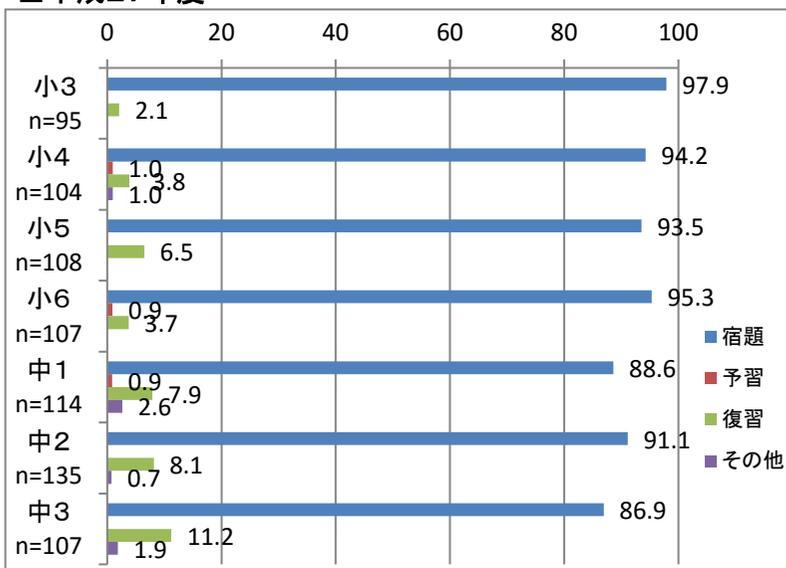


家庭学習の内容に関しては、

小学生・中学生とも、「予習・復習」が減少しているものの、大きな変化は見られない。

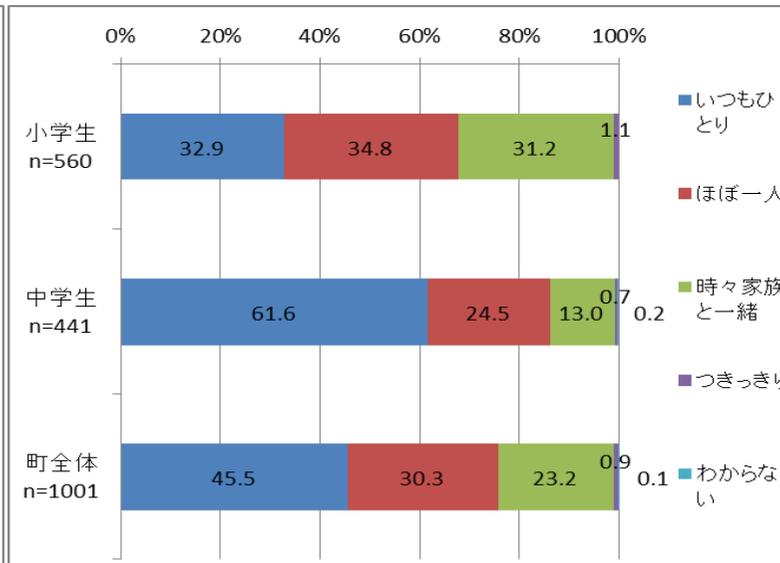
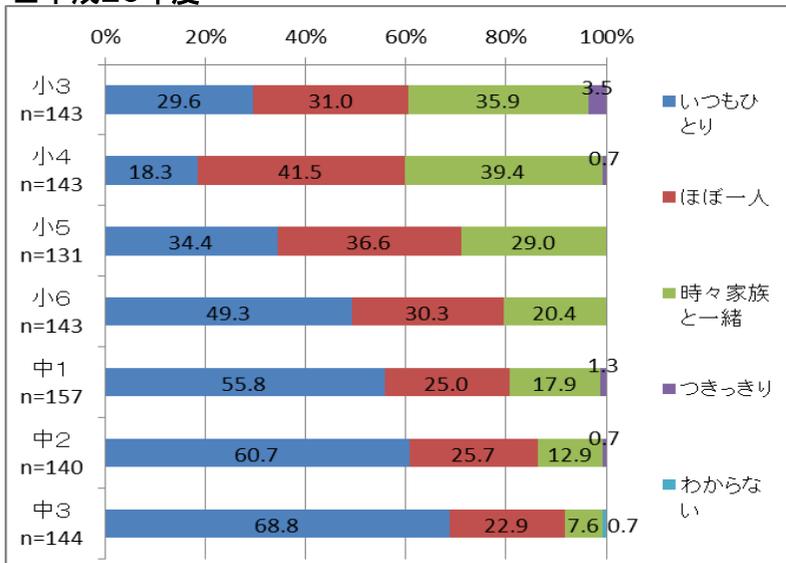
小学生・中学生ともに、予習・復習が減り宿題が増えていることと、学習時間を照らし合わせると、宿題が多く出されているのではないかと推測される。

■平成27年度



(5) お子さんは、一人で学習に取り組んでいますか。

■平成20年度

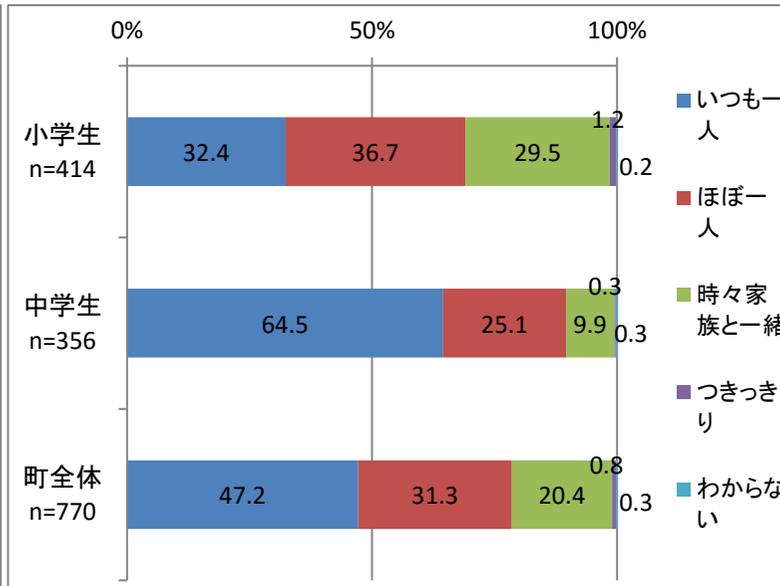
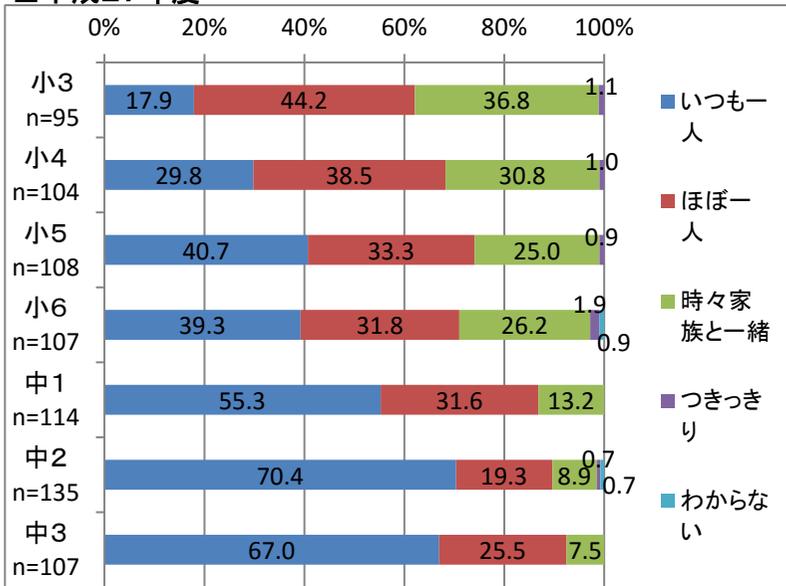


一人で家庭学習に取り組むか
に関しては、

小学生は、「時々家族と一緒に
に学習している」が減少し、
「ほぼ一人で学習している」が
増加している。

中学生は、「いつも一人で学習
している」が増加している。

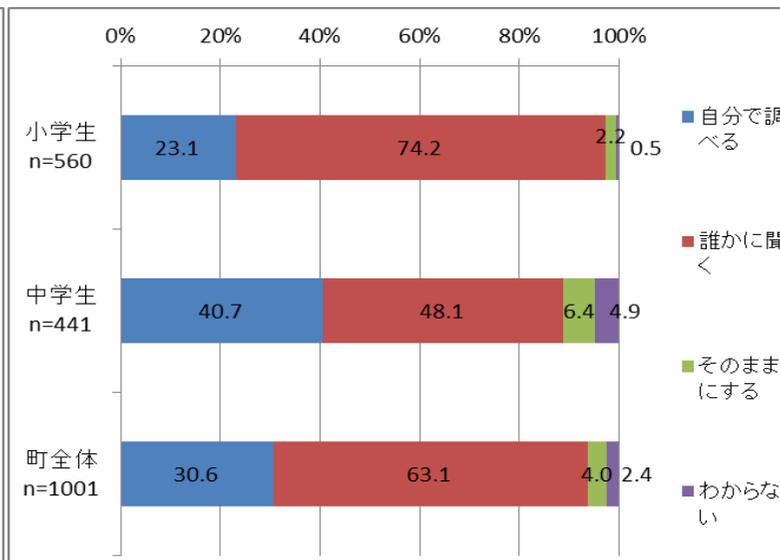
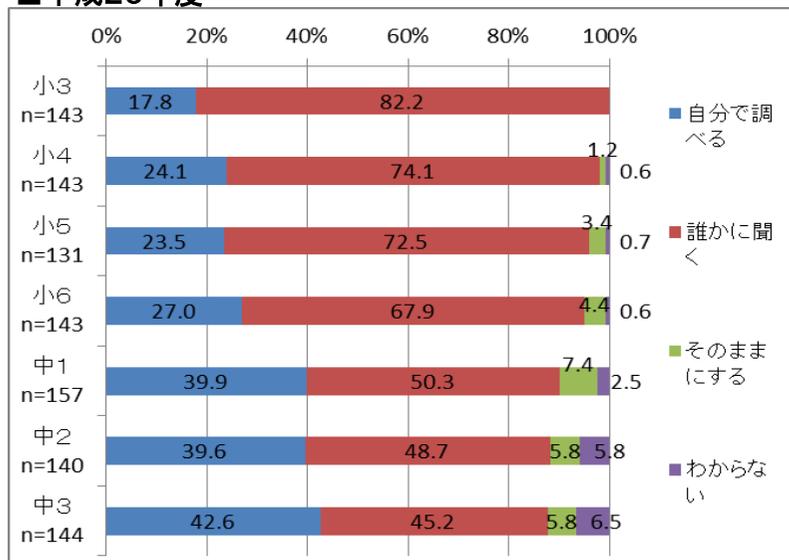
■平成27年度



小学生・中学生ともに、「いつも
一人で学習している」が増加し
ていることから、子どもが進ん
で学習に取り組むようになった
ことがうかがえる。

(6) お子さんが家で学習している時、わからないことがあるとどうしていますか。

■平成20年度

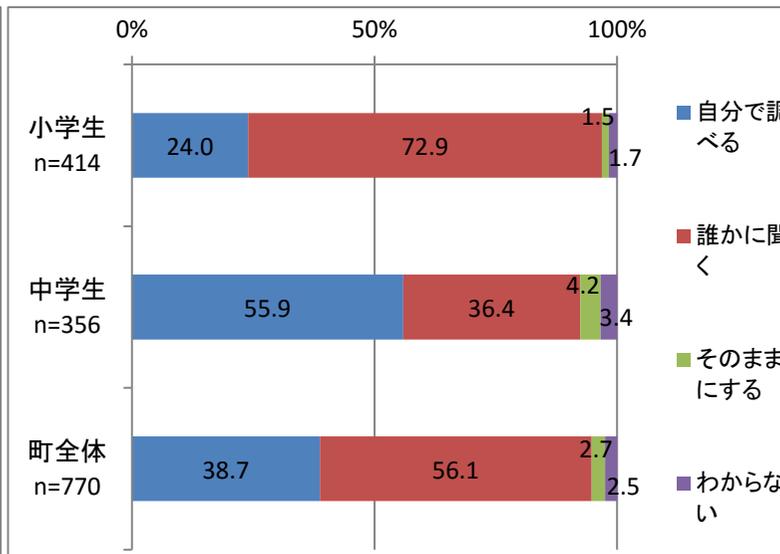
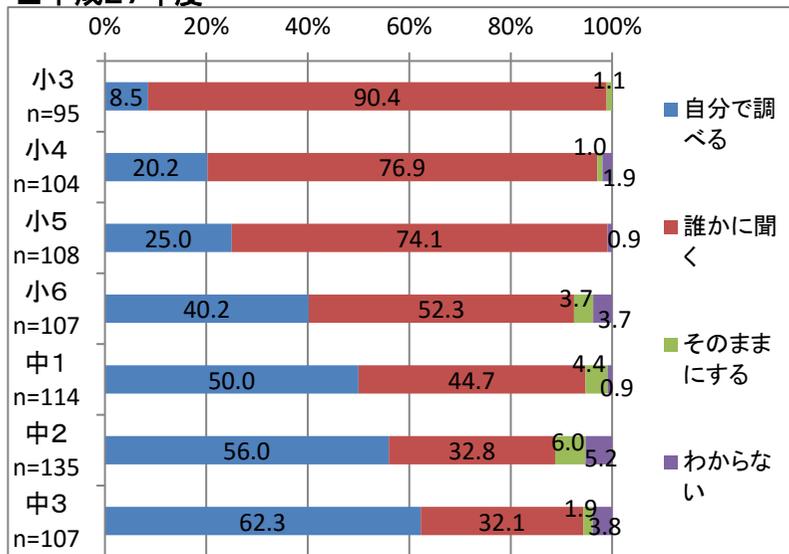


わからないことをどうしているかに関しては、

小学生はほぼ同じ結果だが、中学生では「自分で調べる」が大きく増加している。

学年が上になるほどその割合が増加していることから、学習

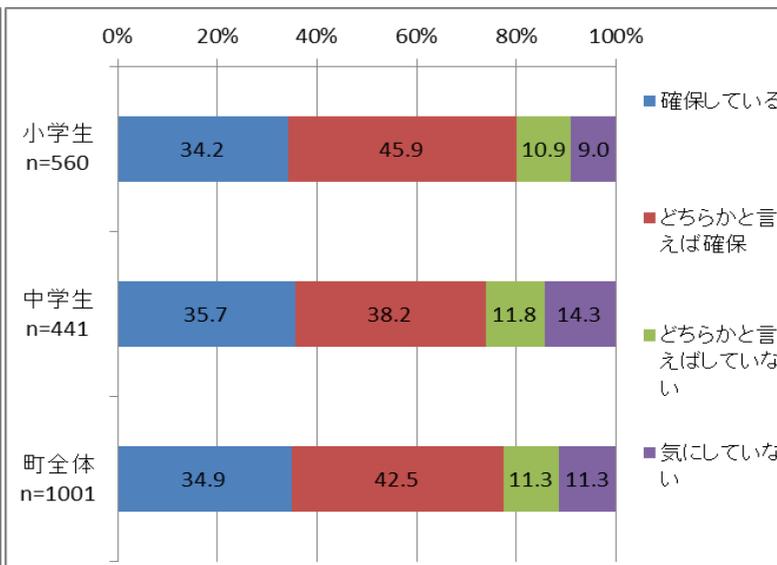
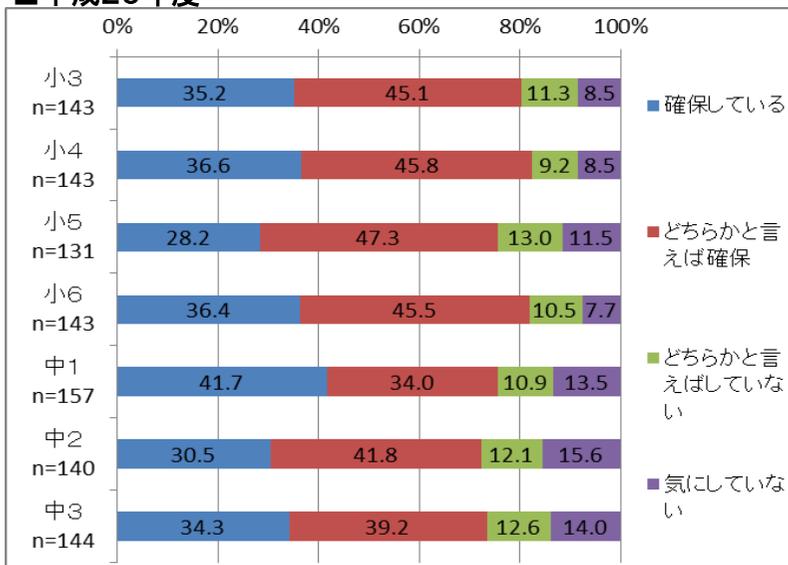
■平成27年度



内容が難しくなるにつれ、家族に頼らず自力で解決しようとする傾向が見られる。

(7) お子さんの家庭での学習のために、お家の方が環境作り(時間や場所の確保)をしていますか。

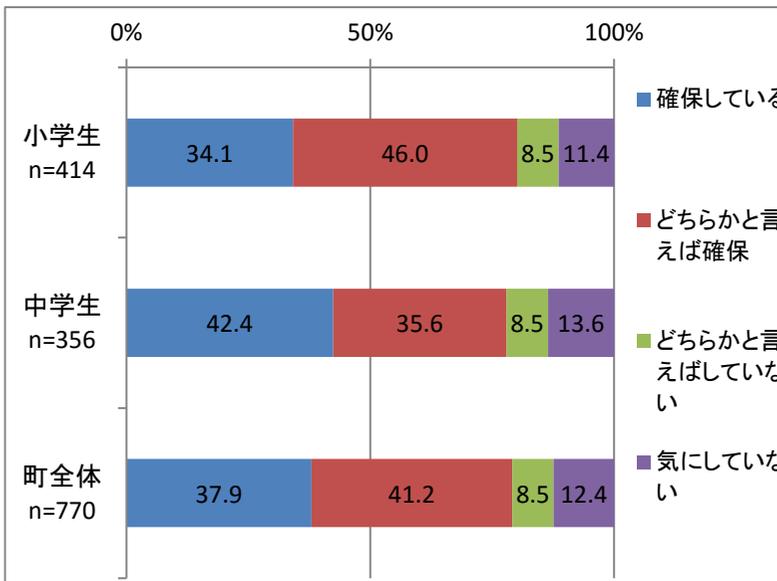
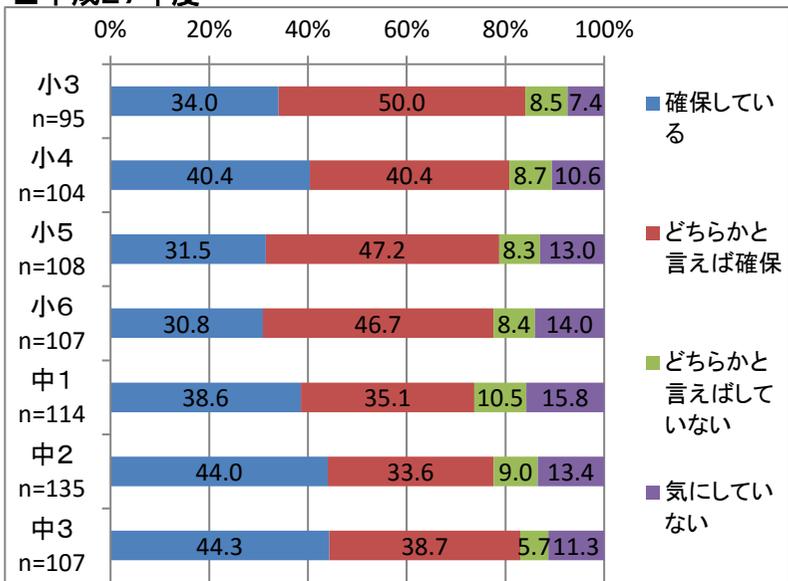
■平成20年度



家庭学習の時間や場所の確保に関しては、

小学生はほぼ同じ結果だが、中学生では時間や場所を「確保している」が増加しており、全体では「確保していない」の割合が減少している。

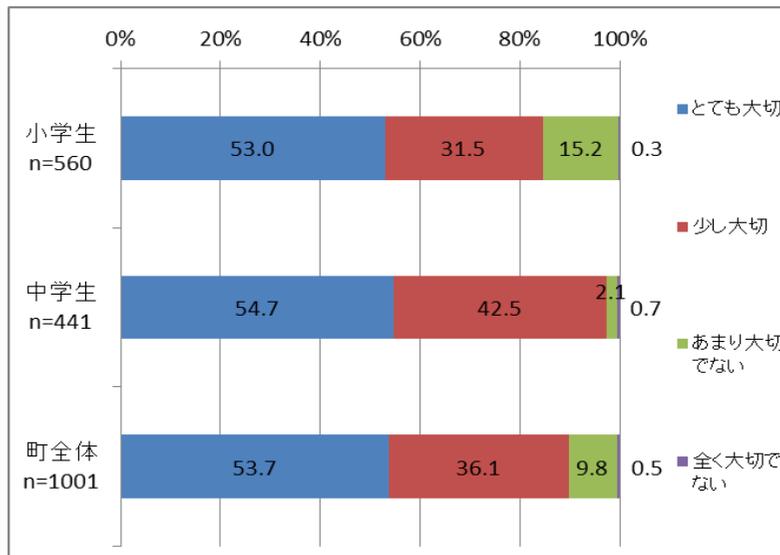
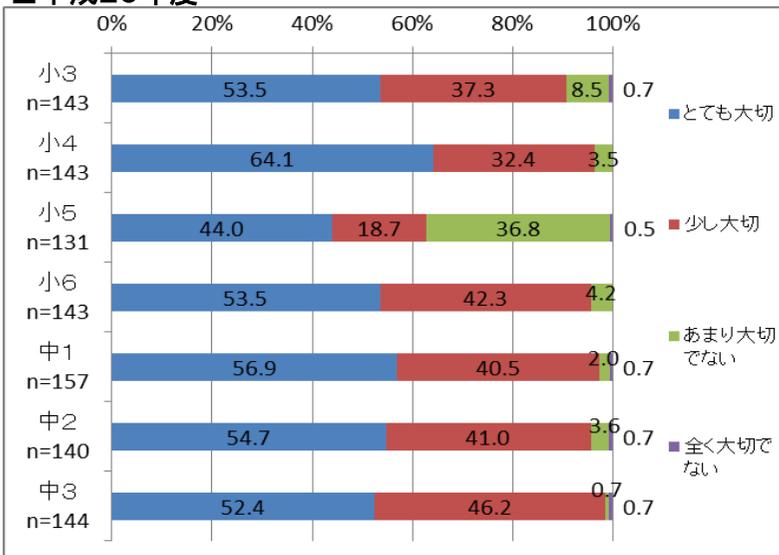
■平成27年度



家庭での学習時間も増加していることから、環境作りが家庭学習の習慣化に影響していると考えられる。

5 あなたのお子さんが一生懸命勉強することは、どのような事に役立つと思いますか。(1)～(8)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。
 (1) 大人になったとき、社会や人の役に立つのに。

■平成20年度

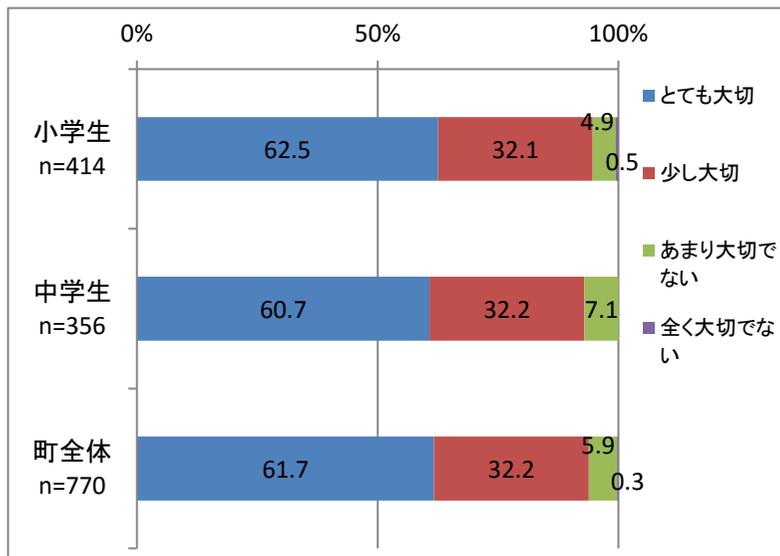
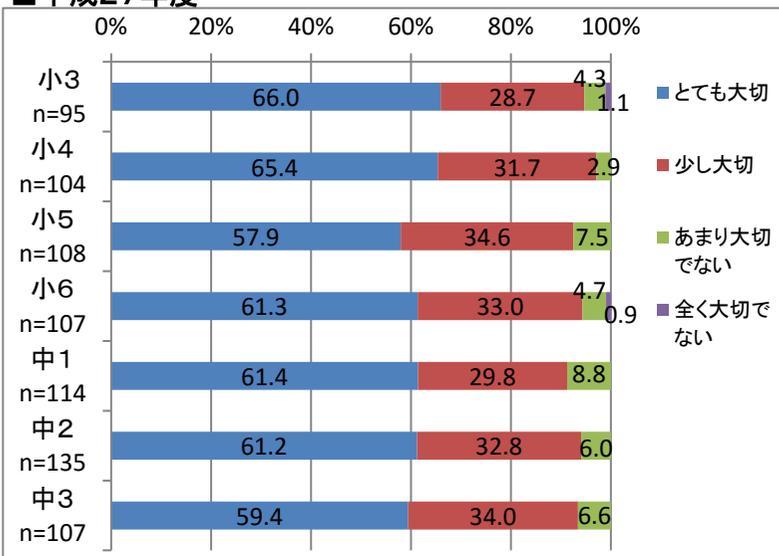


勉強をすると社会や人のために役立つかに関しては、

勉強をすることが将来のために「とても大切」が小学生・中学生ともに増加している。

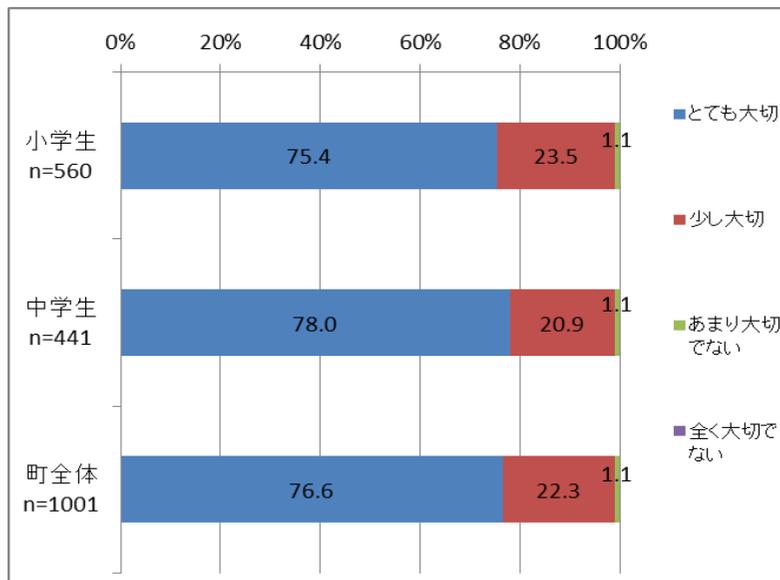
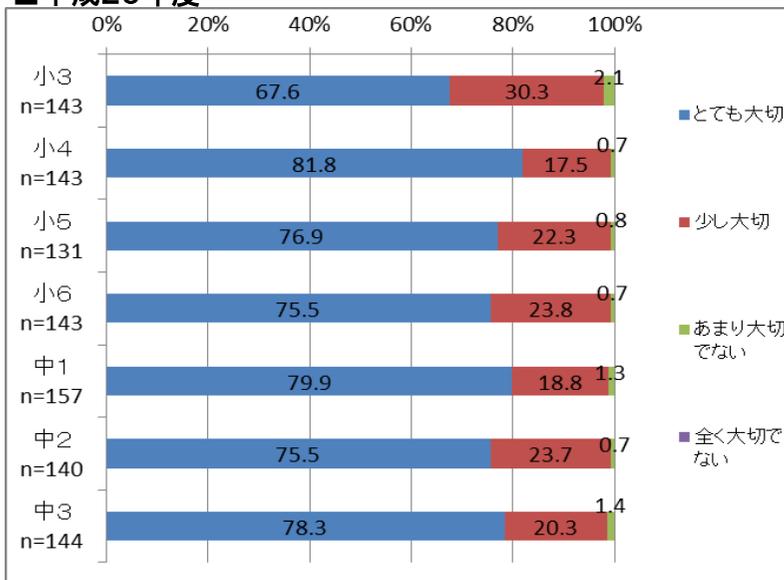
小・中学校での学習が将来役立つという認識が高まってきている。

■平成27年度



(2) たくさんの知識を身につけるのに。

■平成20年度



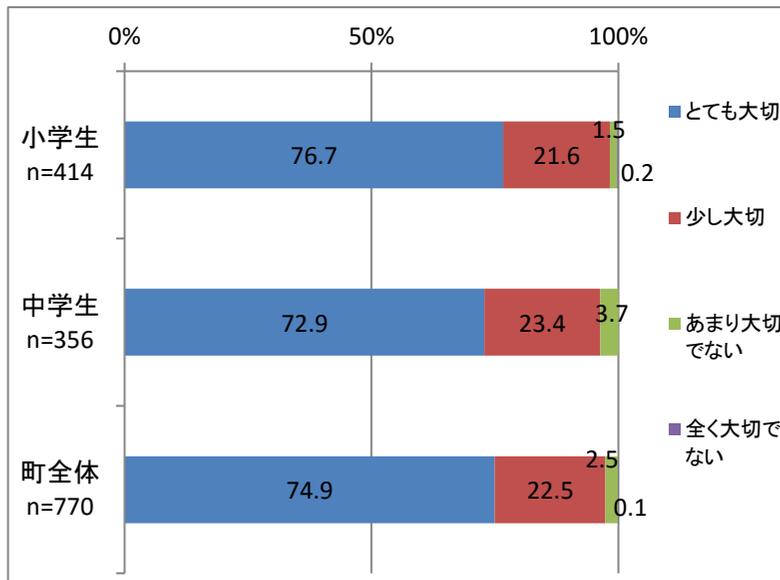
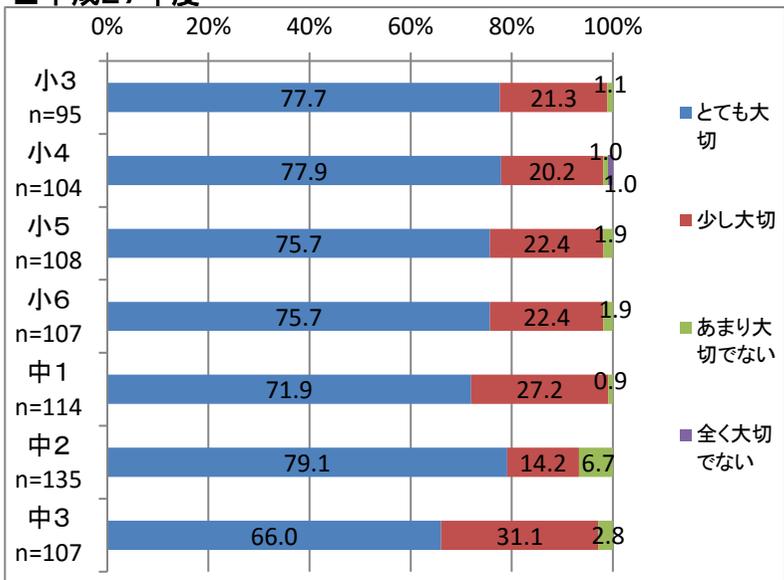
勉強がたくさんの知識を身につけるのに役立つかに関しては、

全体では、7年前と比べて「とても大切」「少し大切」が9割以上と、ほぼ変化がない。

中学生では、「とても大切」という回答が減少している。

学年別に見ると、中1・中3で大きく減少している。

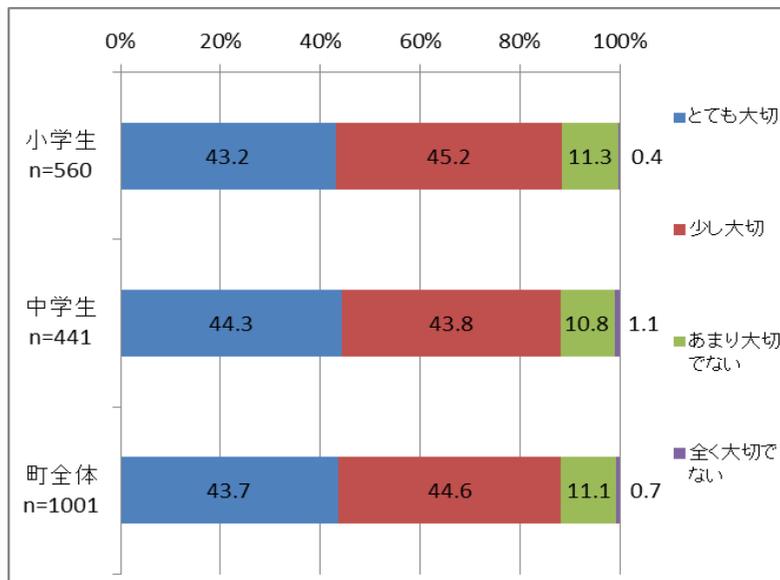
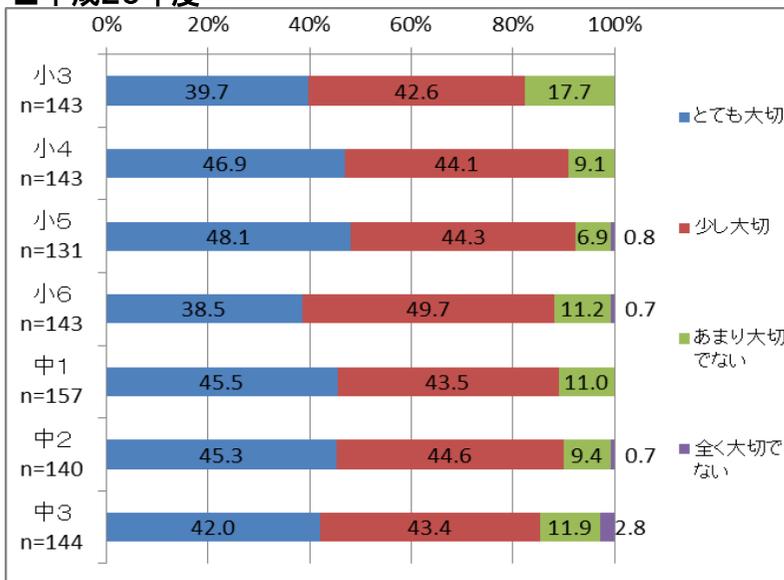
■平成27年度



学年が上がるにつれ、一生懸命勉強することが知識の習得以外にも役立つと考える保護者が増加していると思われる。

(3) 精神的に豊かな生活をするのに。

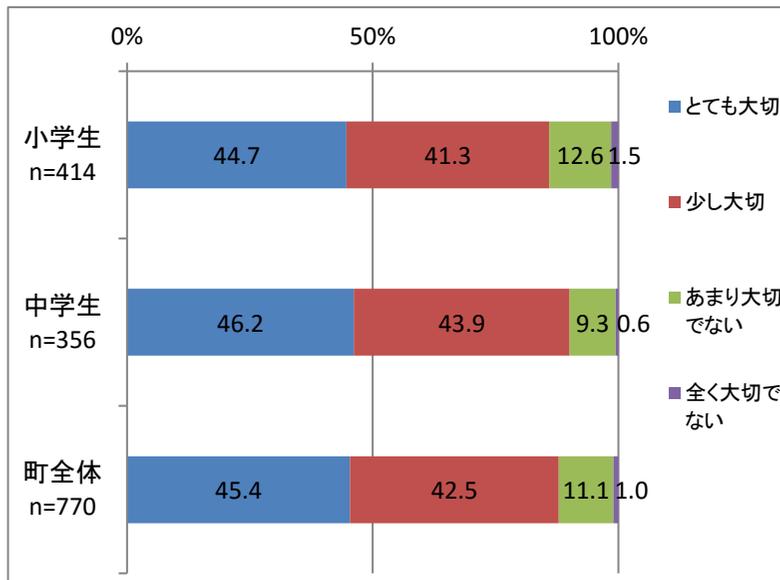
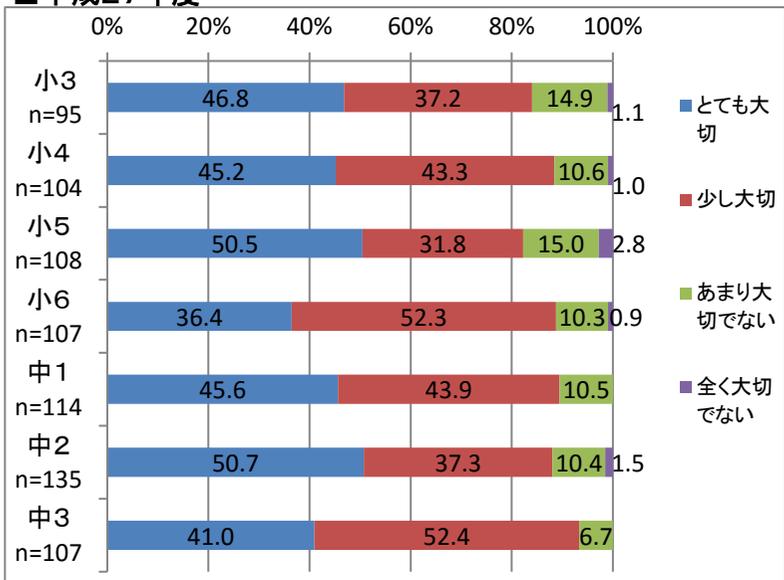
■平成20年度



勉強が精神的に豊かな生活をするのに役立つかに関しては、

小学生・中学生ともに「大切」が約9割で大きな変化は見られず、一生懸命勉強することが、精神的に豊かな生活をするためにも必要だと考えていることがわかる。

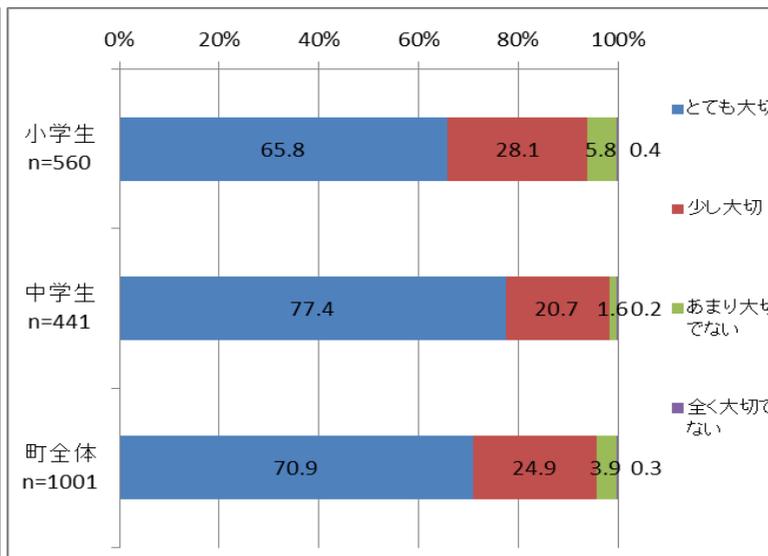
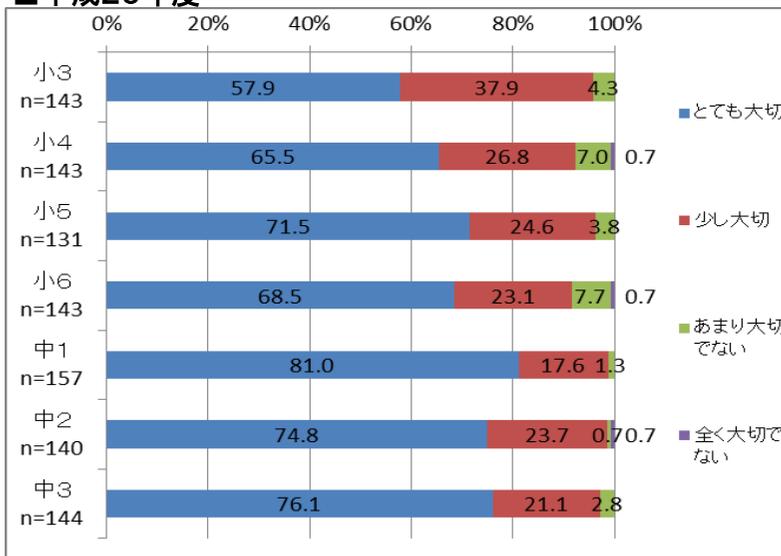
■平成27年度



小学生で「全く大切でない」が若干増加しており、その部分の改善が課題である。

(4) 希望する高校や大学に行くために。

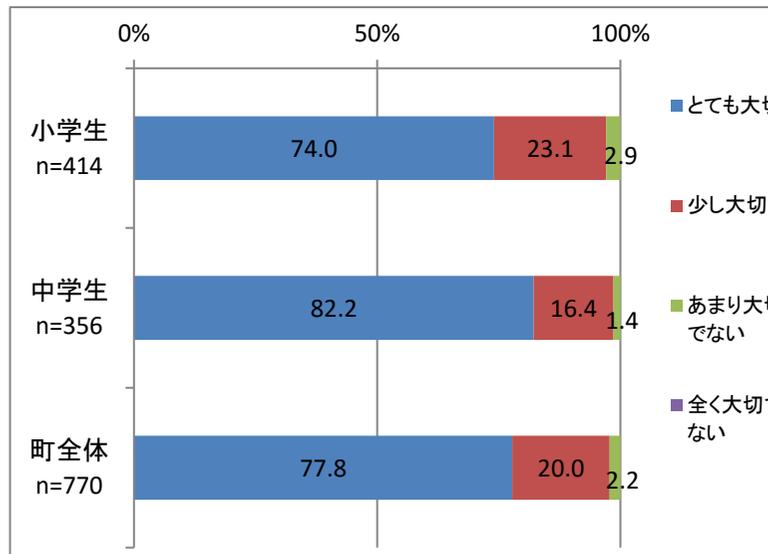
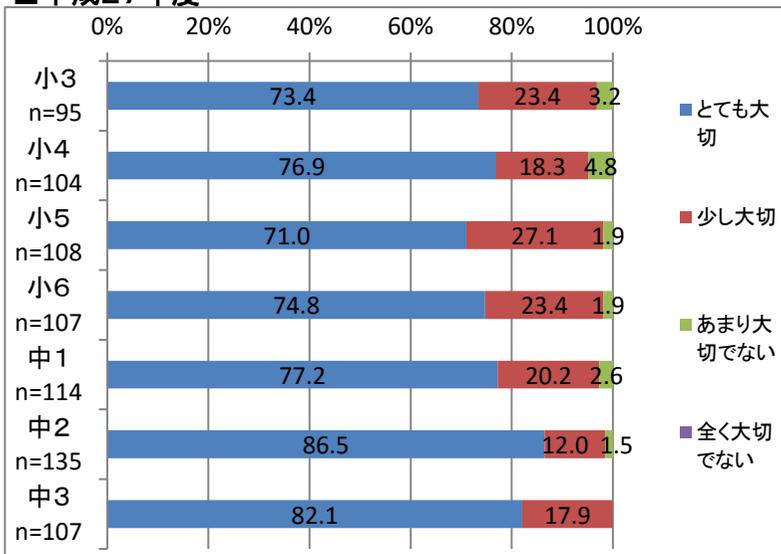
■平成20年度



勉強が希望する高校や大学に行くために役立つかということに関しては、

子どもが勉強することが希望校への進学のために「とても大切」「少し大切」と考える保護者が全体の95%以上と非常に多く、20年度・27年度でほとんど変化は見られない。

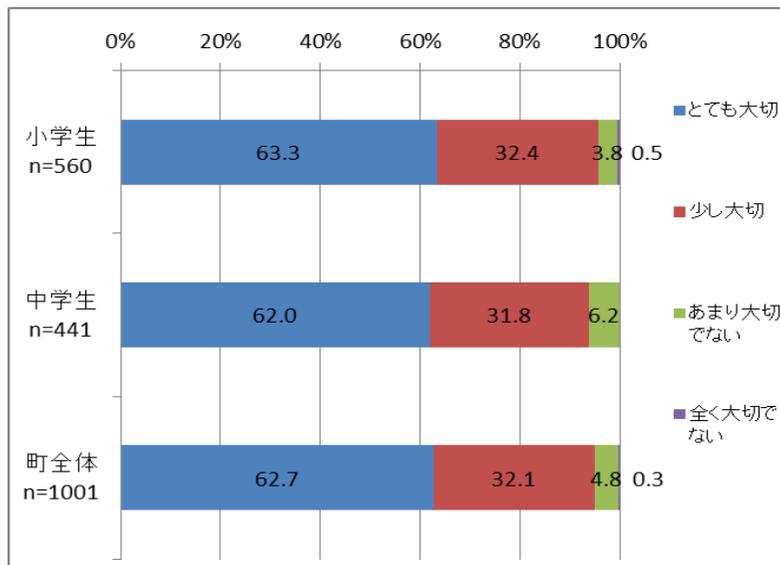
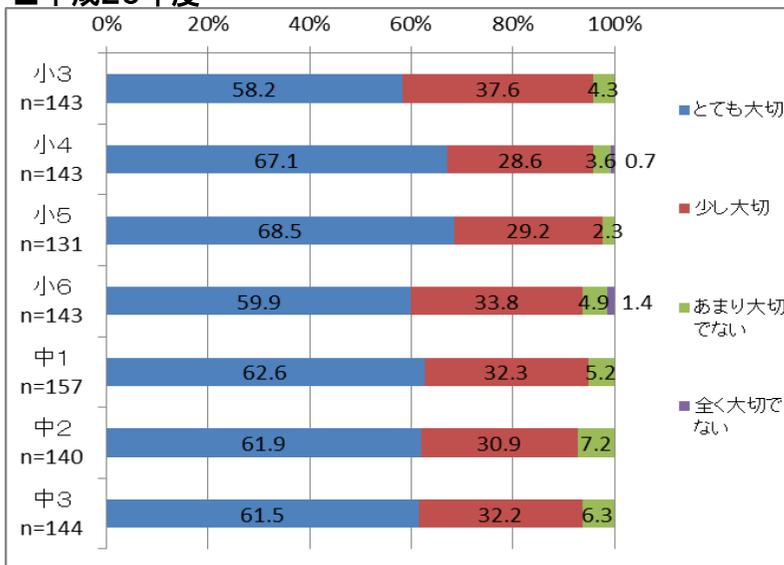
■平成27年度



小学生・中学生とも「とても大切」が大幅に増加していることから、希望校へ進学するために学習が必要と考え、関心を持っていることがわかる。

(5) 勉強で得た知識を、いずれ仕事や生活に生かすために。

■平成20年度

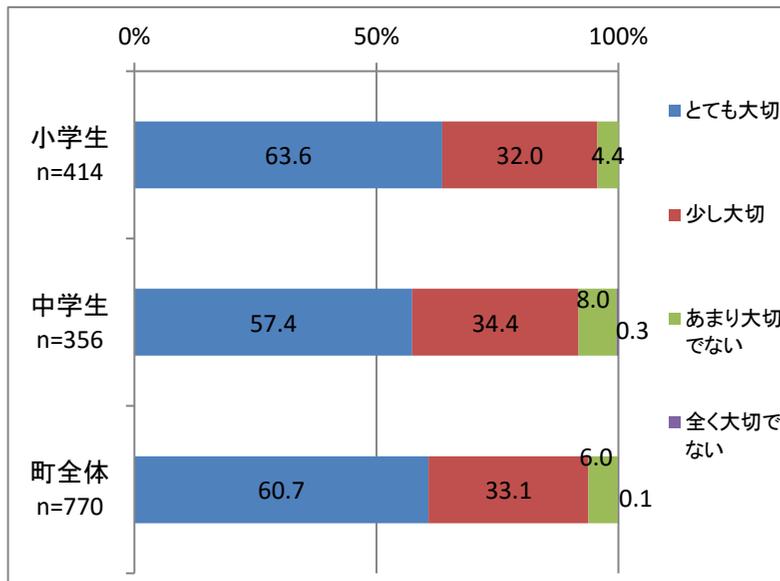
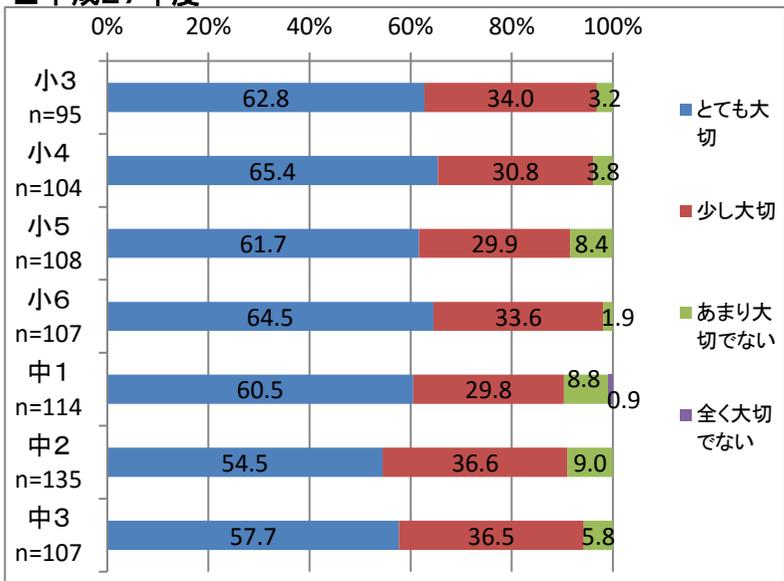


勉強で得た知識を、いずれ仕事や生活に生かすために
 に関しては、

子どもが勉強することは、いずれ仕事や生活に生かすために「とても大切」「少し大切」が小・中とも全体の9割以上で非常に多い。

小学生ではほとんど変化は見られない。中学生の「とても大切」が減少している。

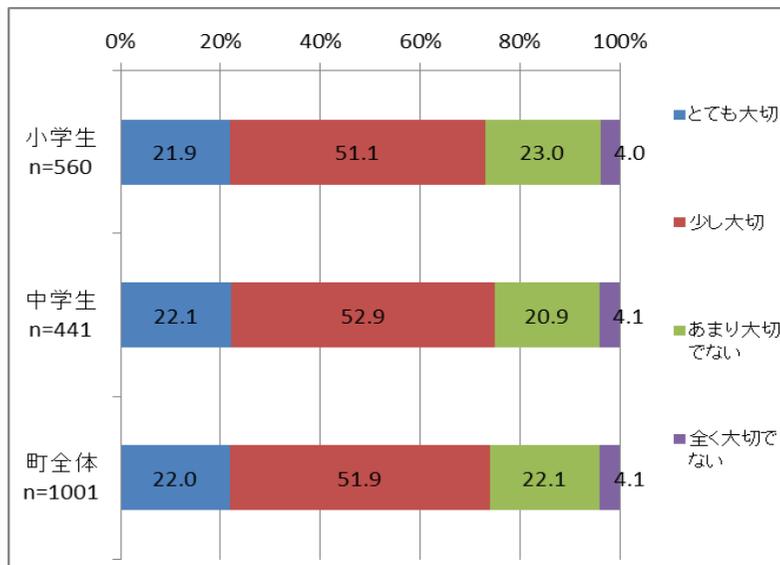
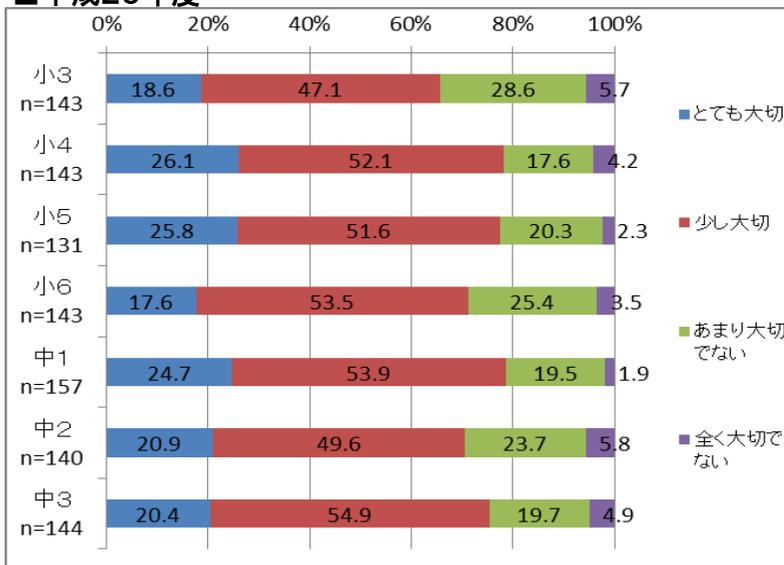
■平成27年度



このことから、全体的に将来の仕事や生活に現在の学習が大切だと考えていることがわかるが、学年が上がるにつれ、重要度が少し低くなっている。

(6) 尊敬される人になるのに。

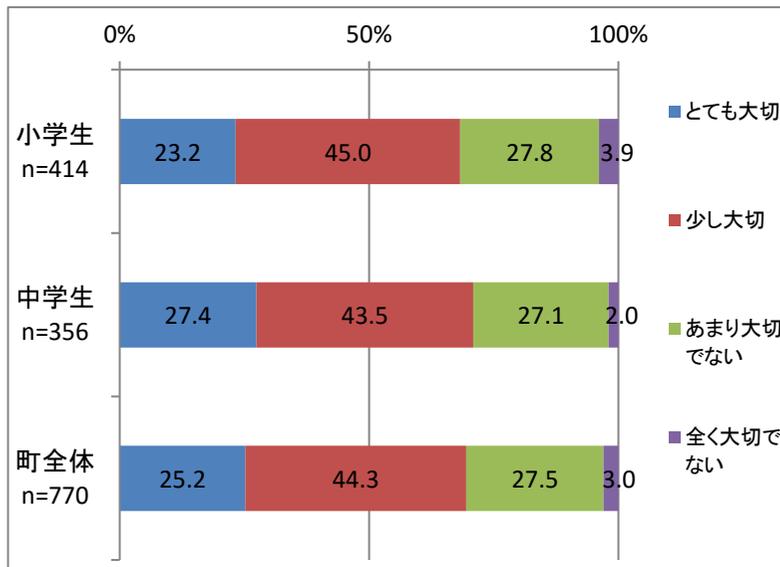
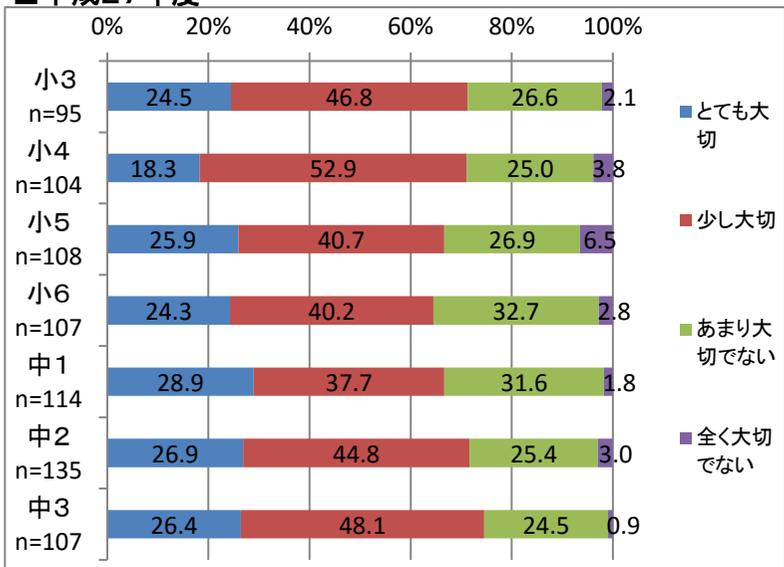
■平成20年度



勉強するのは、尊敬される人になるのに に関しては、

子どもが勉強することは、尊敬される人になるのに「とても大切」「少し大切」が小・中ともに減少した。

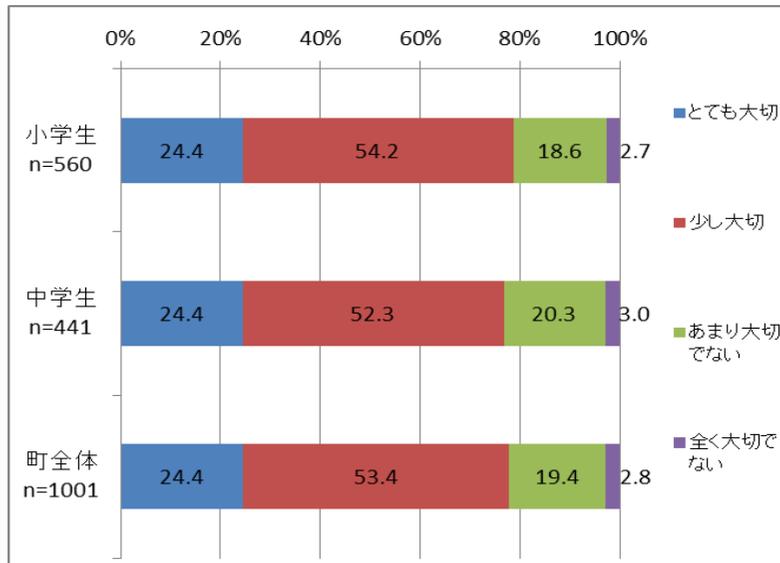
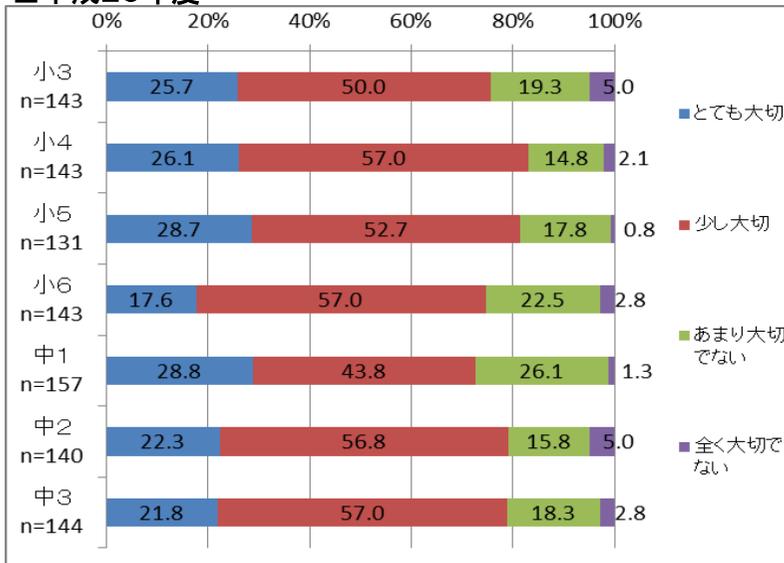
■平成27年度



「大切でない」「全く大切でない」が増加していることから、学習は人間性を高めるのに有効であるという例を示すことが課題であると考えられる。

(7) よいお父さん、お母さんになるのに。

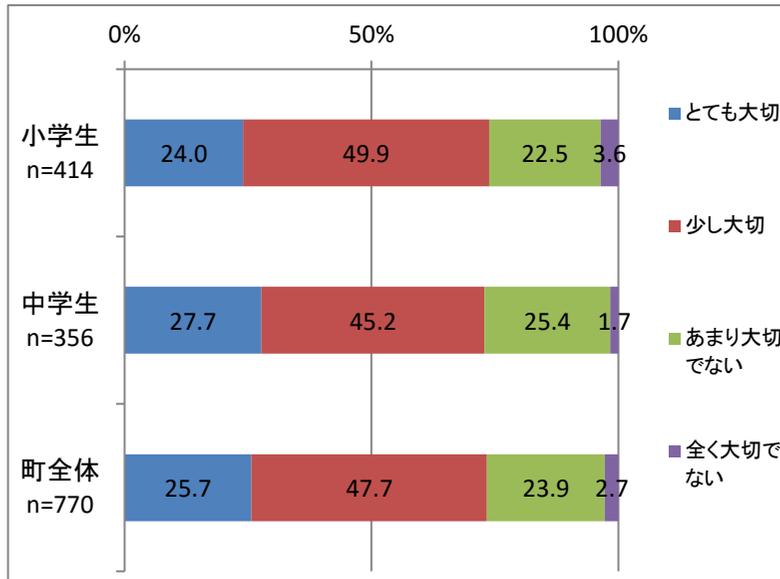
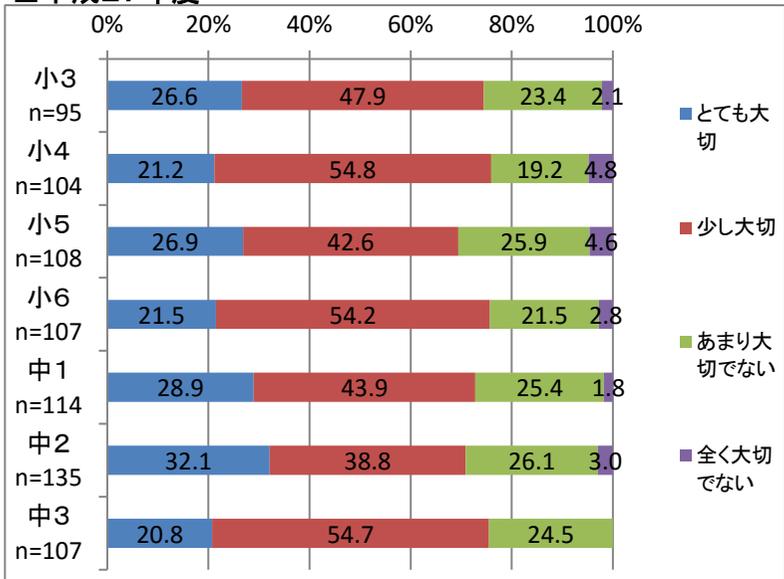
■平成20年度



勉強するのは、よいお父さんお母さんになるのに に関しては、

子どもが勉強することは、よいお父さんお母さんになるのに「とても大切」「少し大切」が、小・中ともに減少している。

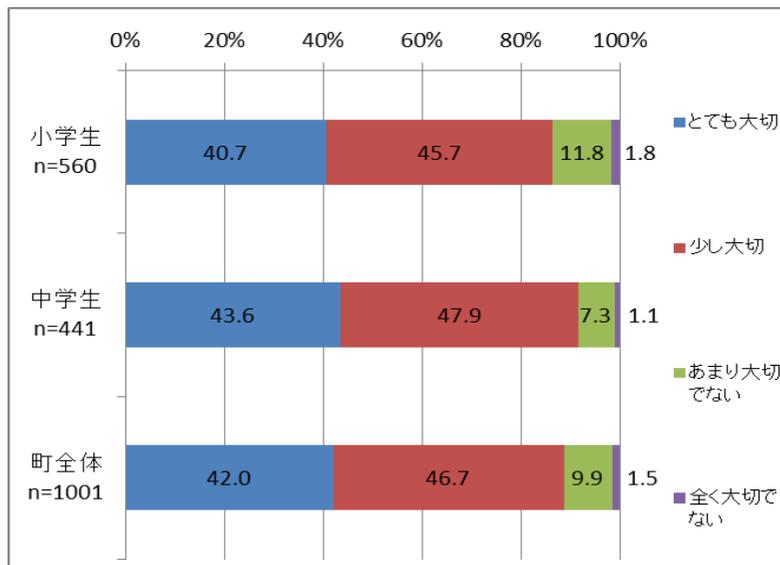
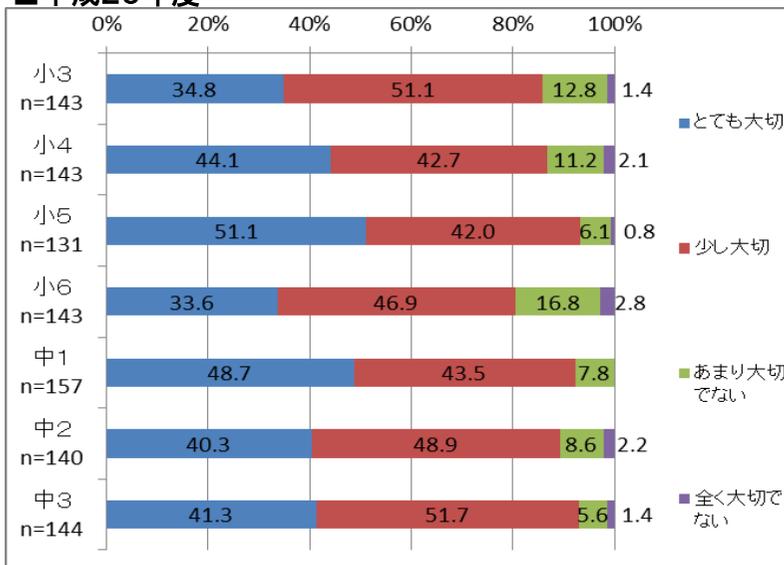
■平成27年度



「あまり大切でない」「大切でない」が増加していることから、現在の学習が将来どのように生きてくるのかを示すことが課題であると考えられる。

(8) 大人になって、やりたい仕事につくのに。

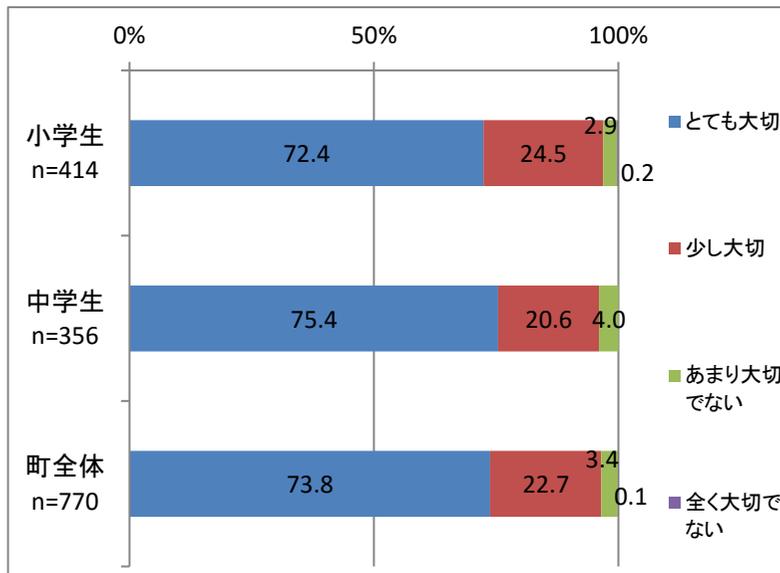
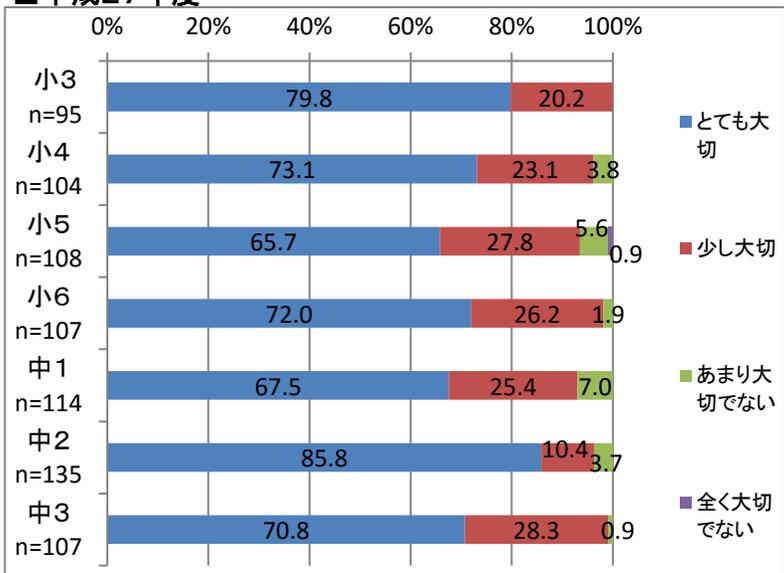
■平成20年度



勉強するのは、大人になって
やりたい仕事につくのに
に関しては、

子どもが勉強することは、大人になってやりたい仕事につくのに「とても大切」「少し大切」が小・中とも増加している。特に「とても大切」と考えている割合が多い。

■平成27年度



このことから、ほとんどの保護者が、やりたい仕事をするために現在の学習が大切だと考えていることがわかる。